

第18回廃棄物学会研究発表会 参加案内

2007年11月19日(月)～11月21日(水)

つくば国際会議場

も く じ

第18回廃棄物学会研究発表会の開催にあたって	2
特別シンポジウム	3
・第1部 法人化・将来構想検討会企画 『「廃棄物学」と学会の将来に向けて(仮)』	3
・第2部 特別講演 『ごみと地球温暖化 - ごみ問題・3Rとのかかわりを考える - 』	3
行事案内	4
・平成18年度廃棄物学会賞受賞記念講演	5
・研究発表(口頭発表・ポスター発表・国際ポスター発表)	5
・国際シンポジウム	5
・研究部会小集会	6
・若手の会	6
・市民展示	6
・施設見学会	6
・意見交換会	7
同時開催行事案内	7
・中央環境審議会 循環型社会計画部会 『循環基本計画の見直しについて(仮)』	3
・全国環境研協議会企画部会廃棄物小委員会 研究発表会	7
・(独)国立環境研究所 E-waste ワークショップ	7
研究部会小集会開催内容一覧	8
タイムスケジュール	12
セッションプログラム	13
発表ガイドライン	32
・口頭発表	32
・ポスター発表・国際ポスター発表	33
参加申込方法	34
会場へのアクセス・緊急時の問合わせ先	35
会場案内図	36

ご 注 意

～例年と異なる点があります。必ずお読みください～

1. 参加申込について(詳細はP.34 および同封の参加申込方法をご覧ください)

事前に参加申込をされた方には、11月上旬にCD-ROM版論文集を郵送致します。

当日に参加申込をされた方には、受付にて、CD-ROM版論文集をお渡し致します。

従来の印刷製本版は作成しません。やむを得ず必要な方には、事前申込された方のみCD-ROM版論文集から出力した簡易製本版を用意する予定です。(実費相当(8,000円)をご負担いただきます。)

事前申込の締切りは、9月28日(金)(振込みは10月10日(水)締切り)です。

2. 発表方法について(詳細はP.32-33の発表ガイドラインをご覧ください)

p13からのセッションプログラムに「ポスター1」または「ポスター2」と記載されている場合は、ポスター発表です。

ポスター1:1日目発表、ポスター2:2日目発表で、その他は口頭発表です。

ポスター発表の場合は、発表ガイドライン(P.33)を参照してポスターを作製し、当日持参してください。

口頭発表の場合は、プロジェクターでの発表となります。

3. 施設見学会について(詳細はP.6をご覧ください)

今年の施設見学会は第一日目午前に1コースで開催します。そのため、見学会の申込は事前申込のみとなります。

定員になり次第、締切りとさせていただきます。

見学会への参加には、研究発表会への参加が必要です。研究発表会の事前申込も併せて行ってください。

4. 同時開催行事について(P.3 およびP.7をご覧ください)

主催は廃棄物学会ではありませんので、詳細については、各主催者のホームページ等にて直接ご確認下さい。

5. 台風や地震などの緊急時の対応は、臨時ホームページ(携帯電話のweb閲覧機能に対応、P.35参照)でお知らせします。

研究発表会についての情報は、ホームページにも掲載しておりますのでご覧ください。

<http://www.jswme.gr.jp/> (廃棄物学会ホームページ)

<http://www.jswme.gr.jp/taikai2007/> (研究発表会専用ホームページ)

第 18 回 廃棄物学会研究発表会の開催にあたって

第 18 回廃棄物学会研究発表会実行委員会委員長
独立行政法人 国立環境研究所 理事 仁井 正夫

第 18 回廃棄物学会研究発表会が 11 月 19 日（月）～21 日（水）の 3 日間、つくば国際会議場にて開催されます。これまでの応募状況から見ると例年通りの質の高い多数の研究発表（口頭発表およびポスター発表）が期待されます。ぜひ多くの方々にご参加戴きたくご案内申し上げます。

今回は特別企画として廃棄物学と学会の将来を考える特別シンポジウムを企画しております。これまでの「廃棄物学」の変遷を振り返り、その原点を確認するとともに今後の展開を考えるための企画です。これに引き続く特別企画としては、ごみ問題・3R と地球温暖化を考える特別講演を用意しております。ごみ問題・3R についてはこれ独自で語るだけでなく、エネルギー問題、資源問題、温暖化対策と連動させて語る必要が高くなってきているように思います。学会員のみならず数多くの方々に参加していただければと考えております。

また、今回の大きな特徴は研究発表会の二日目（11 月 20 日（火））特別企画の後に、この研究発表会に併せて中央環境審議会循環型社会計画部会が開催されることです。環境省および中央環境審議会では現行の循環型社会形成推進基本計画（2003 年策定）の見直しの検討を進められておりますが、その見直しプロセスにおいて国民各層の多様な意見を踏まえたものとする必要があるとのご認識から、廃棄物学会研究発表会と同時開催とされたものと承知しております。専門家集団としての学会員をはじめ多くの方々に参加し、実のあるものとするのが求められております。学会として大変に光栄なことであると受け止め、全面的に協力することとしております。皆様方の積極的な参加・貢献をぜひお願い申し上げます。

さらに、日韓両学会の連携協力による国際シンポジウム、各研究部会企画による小集会などでも最新のトピックスが話題として取り上げられ、興味深い討論などが行われる予定です。関連イベントとしても、（独）国立環境研究所主催の E-waste 国際ワークショップ、全国環境研協議会の廃棄物関連研究発表会など、目白押しです。

私ごとで恐縮ですが、たまたまの偶然から実行委員長の責を担うこととなりました。廃棄物の問題は私が始めて社会人になったときに担当した分野ですし、その後もたびたび職務としてかかわってまいりました。私として思いのある分野においてこうした役割を担えることは本当に光栄でありますし、ありがたいことと感じ、一生懸命準備いたしております。

つくばでの研究発表会は 4 年前にも開催されたと伺っておりますが、2 年前にエクスプレス (TX) が開通し、つくばの駅周辺の街並みも大きく変わってきています。研究、サイエンスの都市として発展してきたつくばに新たな様相が生まれてきています。晩秋のつくばの地で多くの関係者が集い、廃棄物、そしてわが国の循環型社会の未来について、一緒に議論しあえたらと思います。皆様のご参加を心からお待ちしております。



特別シンポジウム

日 時:11月20日(火) 13:15 - 15:00

場 所:つくば国際会議場 大ホール

第1部 廃棄物学会 法人化・将来構想検討会企画(13:15 - 14:00)

「廃棄物学」と学会の将来に向けて(仮)

設立当初から社会的状況は大きく変化し、適正処理の確保から循環型社会形成、3Rの推進に向けた取り組みへとシフトしつつある。学会が設立時に目指した「廃棄物学」とは何であったのか、「現在」、そして「未来」の社会ニーズに応えうる「廃棄物学」、学会の将来像は？

以上のような問題意識から、本シンポジウムでは「廃棄物学」と学会の将来について、改めて考える機会をつくりたい。

1. 特別講演

廃棄物学会会長 武田信生 (京都大学名誉教授 立命館大学エコ・テクノロジー研究センター長)

過去から現在までの廃棄物学会を取り巻く社会情勢の変化や学分野で取り上げられてきた研究課題などの変遷を振り返りながら、持続可能な社会という観点から、現在の、また未来の「廃棄物学」を再定義する。その上で、学会の将来において、どのようなアイデンティティを確立して行くべきなのか、「廃棄物学」という呼称におさまるのか、など、学会個人に問題提起をする。

2. 法人化・将来構想検討会報告

法人化・将来構想検討会 会長(学会理事) 澤地實(社)海外環境協力センター(OECC)

第2部 特別講演(14:00 - 15:00)

「ごみと地球温暖化 - ごみ問題・3Rとのかかわりを考える - 」

先のG8サミットでは温暖化対策が主要議題として取り上げられ、今後の長期的な削減の方向性が打ち出され、来年度の洞爺湖でのサミットでも継続して議論される見込みである。一方、国では、脱温暖化と循環型社会形成を両輪とした施策、取り組みを展開しており、また両者は密接に関連していると考えられている。循環型社会の形成は脱温暖化対策の面でも大きな駆動力となる可能性をもっている。しかし一方で、ごみ問題の解決や3Rへの取り組みが逆に温暖化ガスの排出を増加させている場合があることも事実である。以上のような背景を踏まえ、本シンポジウムでは、まず地球温暖化問題と低炭素社会への転換に関して、循環型社会と対比させながら基礎的な理解を深め、つぎに、循環型社会形成と温暖化対策は両立できるのか、ごみ問題の解決とどのようにバランスさせていくべきなのか、持続可能な社会に向けた今後のあり方を考えることとしたい。

1. 特別講演 「低炭素社会到来は転機(仮)」

西岡秀三 (独)国立環境研究所 参与

2. 解説 「ごみ問題・3Rと脱温暖化・低炭素社会のかかわりを考える(仮)」

森口祐一 (独)国立環境研究所 循環型社会・廃棄物研究センター長

<同時開催行事> 中央環境審議会 循環型社会計画部会 「循環基本計画の見直しについて(仮)」

日 時:11月20日(火) 15:10 - 16:50

場 所:つくば国際会議場 大ホール

2003年に策定された循環基本計画の見直しに際して、循環型社会づくりの方向性について廃棄物学会の専門家を含め幅広く意見交換を行う公開の場として設けられる予定です。詳細につきましては、環境省ならびに中央環境審議会のホームページを御確認下さい。

行事案内

行 事		日 時	会 場	備 考
特別シンポジウム	第1部:法人化・将来構想検討会企画	11月20日(火) 13:15 - 14:00	大ホール	一般公開企画
	第2部:特別講演	11月20日(火) 14:00 - 15:00	大ホール	一般公開企画
(同時開催行事) 中央環境審議会 循環型社会計画部会		11月20日(火) 15:10 - 16:50	大ホール	公開企画
廃棄物学会賞受賞記念講演		11月21日(水) 11:45 - 12:00	第1、3、4会場	
研究発表	口頭発表	11月19日(月) 13:15 - 11月20日(火) 9:15 - 11月21日(水) 9:45 -	P.12を ご覧ください	
	ポスター発表・ 国際ポスター発表	ポスター1: 11月19日(月) 17:00 - 18:30 ポスター2: 11月20日(火) 17:00 - 18:30	多目的ホール	公開掲示時間: 11月19日(月) 15:00-18:30 11月20日(火) 15:00-18:30
国際シンポジウム		11月19日(月) 15:00 - 17:00	第3会場	使用言語:英語
研究部会小集会		部会によって異なります。P.8 - 11 をご覧ください		
若手の会		11月19日(月) 18:15 - 20:15	第6会場	
市民展示		11月19日(月) - 21日(水)	2階 コンコース 「市民展示会場」	一般公開企画
施設見学会		11月19日(月) 9:00 - 13:00	P.6を ご覧ください	
同時開催	全国環境研協議会 企画部会廃棄物小委員会	11月21日(水) 13:00 - 16:40	第7会場	
	(独)国立環境研究所 E-waste ワークショップ	11月21日(水)PM - 22日(木)	中会議室 406	
意見交換会		11月20日(火) 18:40 - 20:30	1階 エントランス ホール	つくば国際会議場入口

平成 18 年度廃棄物学会賞受賞記念講演

11月21日(水) 11:45 - 12:00 第1会場 奨励賞 山川 肇(京都府立大学)
「ごみ有料化研究の展開」

11月21日(水) 11:45 - 12:00 第3会場 論文賞 稲葉陸太((独)国立環境研究所)
「鉄鋼産業におけるプラスチック製容器包装リサイクルのLCA-システム境界の影響-」

11月21日(水) 11:45 - 12:00 第4会場 奨励賞 田崎智宏((独)国立環境研究所)
「リサイクル促進方策の比較と評価」

研究発表(口頭発表・ポスター発表・国際ポスター発表)

発表数: 363編(口頭発表:203編、ポスター発表:160編(国際ポスター発表:43編))

ポスター発表に対して「優秀ポスター賞」の表彰を行います。優秀ポスター賞は、第二日目意見交換会において審査結果の発表・表彰を行うと共に、後日、廃棄物学会ニュース等に掲載いたします。

詳細はセッションプログラム(P.13 - 31)をご覧ください。

国際シンポジウム

日時: 11月19日(月) 15:00 - 17:00

場所: 中ホール200

シンポジウムテーマ「有害廃棄物のマテリアルフローとリスク管理」

使用言語: 英語(通訳はありません)

内容:

日本側講演者

- 1) "Persistent Chemicals and Waste Management"
(残留性化学物質と廃棄物管理)

酒井伸一
京都大学環境保全センター 教授

- 2) "Material Flow and Management of Waste Electrical and Electronic Equipment in Asia"
(アジアにおける廃電気電子機器のマテリアルフローと管理)

寺園 淳
(独)国立環境研究所 循環型社会・廃棄物研究センター 室長

韓国側講演者

- 1) "Hazardous Waste and POPs Management in Korea. Its Status and Perspectives"
(韓国有害性廃棄物及び POPs 管理の現況と展望)

Kang, Sung Goo
Deputy Director, Industrial Waste Division, Ministry of Environment, Republic of Korea

- 2) "International Environmental Regulations in Electrical and Electronic Products"
(電気電子製品の国際環境規制動向)

Jung, Bong Jin
Professor, Dept. of Environmental Engineering, University of Suwon, Korea

コーディネータ: 杉山涼子 (国際委員会)

研究部会小集会

日時: 11月19日(月)、11月21日(水) (P.12 タイムスケジュールをご覧ください)

内容: P.8 - 11 研究部会小集会内容一覧をご覧ください。

小集会開催予定研究部会:

有害廃棄物+廃棄物試験検査法部会(共催)、廃棄物計画部会、社会・経済部会、埋立処分研究部会、ごみ文化研究部会、リサイクルシステム・技術研究部会、廃棄物焼却研究部会、バイオマス研究部会、行政研究部会、消費者市民研究部会+C&G(共催)

若手の会

日 時: 11月19日(月) 18:15 - 20:15

場 所: 第6会場

昨年度の活動として若手の会会員のコラボレーションによる研究のための「ネタだし合宿」を行い、①若手の会メンバーによる共同研究の可能性・方向性、②共同研究第一弾として廃棄物学会員を対象としたアンケート調査、③若手の会の機能、④サマースクールの可能性、などの議論を行いました。また、前回の総会では、合宿成果紹介、アンケート記入による参加メンバーの「共同研究立ち上げのための研究キーワード抽出」、「サマースクールなどの若手活動への意思」調査、を行いました。

今年度の総会は、「若手の会としての共同研究立ち上げ」の実現への具体的なステップアップを見越した学生と社会人の交流の場を予定しています。奮ってご参加ください。

※敷居が高いと思わないでください！見学参加のみでも大歓迎です！

※学生の皆さん、社会人の方と交流するよい機会です！

※まだ未定ですが、同会場での意見交換会もあるかもしれません。準備の都合上、参加希望の方は事前に下記までご連絡ください。詳しい情報は、<http://www.jswme.gr.jp/wakate/> をご覧ください。

参加希望連絡先: 若手の会事務局 朝倉 宏 asakura.hiroshi@nies.go.jp (FAX:029-850-2694)

市民展示

一般公開企画として、市民団体等による展示を行います。参加費無料で一般の方も参加できます。

期 間:11月19日(月)～11月21日(水)

場 所: 2階コンコース「市民展示会場」

施設見学会

施設見学会コース

日 時	内 容	定員	参加費
11月19日(月) 9:00～13:00	9:00 品川駅集合 (集合場所は申込受付後ご連絡します) 東京スーパーエコタウン バイオマス発電施設を見学 ～バイオエナジー株式会社 城南島工場～ (首都圏から収集した食品廃棄物を破碎し、メタン発酵により発生したガスを燃料電池とガスエンジンを組合せ、電気と熱にする施設です。) バイオマス発電施設見学後バスでつくばへ お昼はバスの中でお弁当をお配りします。 13:00 つくば国際会議場到着後解散	30名	3,000円 (昼食代含む)

申込方法

- ① 同封の見学会申込書にご記入の上、FAX(03-3769-1492)にてお申込ください。
- ② 先着順に受付します。申込書到着後、申込状況を確認し、連絡担当者の方にメールまたは FAX にて連絡します。
- ③ 参加費の入金方法は、上記②の連絡の際に記載しますので、それ以前の振込みはご遠慮ください。事前申込の場合、当日、現金でのお支払いはできません。

申込締切: **平成19年9月28日(金) 先着順。(定員を大きく越えた際はお断りする場合があります。)**

注意点

- ・ 申込には、研究発表会への参加が必要です。研究発表会の事前申込もあわせて行ってください。
- ・ 参加者の都合によりキャンセルされる場合は、参加費は返却いたしません。
- ・ 事前申込で定員に満たなかった場合は、学会ホームページでお知らせし、追加で申込を受け付けます。
- ・ 交通事情によりつくば国際会議場に到着する時間が遅れる場合がありますので、研究発表等の予定がある方の申込はご遠慮ください。

申込・問合せ先

廃棄物学会事務局

TEL: 03-3769-5099

FAX: 03-3769-1492

意見交換会

日 時： 11月20日(火) 18:40～20:30

場 所： つくば国際会議場エントランスホール (P.36 参照)

参加費： 【事前申込】:6,000円 ただし、学生会員・登録市民団体会員は2,500円

【当日申込】:7,000円 ただし、学生会員・登録市民団体会員は3,000円

申込方法:

【事前申込】研究発表会の事前申込書にてお申込ください。

事前申込後、不参加の場合でも参加費の返金はいたしません。

【当日申込】2日目(11月20日)午後から受付します。

研究発表会参加証を意見交換会受付にお出しください。

<同時開催行事案内>

中央環境審議会循環型社会計画部会「循環基本計画の見直しについて(仮)」

主 催： 中央環境審議会 循環型社会計画部会

日 時： 11月20日(火) 15:10～16:50

詳細はP3をご参照下さい。

全国環境研協議会企画部会廃棄物小委員会 研究発表会

主 催： 全国環境研協議会企画部会廃棄物小委員会

日 時： 11月21日(水) 13:00～16:40

場 所： 小会議室 303 (第7会場)

(独)国立環境研究所 第4回 E-waste ワークショップ

主 催： (独)国立環境研究所

日 時： 11月21日(水)午後 - 22日(木)

場 所： 中会議室 406 (予定)

言 語： 英 語

参加費： 無 料

申込み方法： 10月頃より、国立環境研究所ホームページ上でご案内の予定。

内 容： アジアを中心に海外から専門家をお呼びし、廃電気電子機器(E-waste)の材料フロー、廃棄やリサイクルにかかる評価、管理システム、リユースなどに関して、研究発表や討論を行う予定です。皆様のご参加をお待ち申し上げます。

研究部会小集会 開催内容一覧(1)

日時・会場	題 目 (開催部会名)
11月19日(月) 13:00-14:45 第4会場	「負の遺産(PCB、石綿)対策と試験法をめぐる課題」 (有害廃棄物研究部会、廃棄物試験・検査法研究部会)
<p>趣旨: 両部会共催企画として、有害物質管理とその為の試験評価方法に関するトピックを取り上げました。有害物質を含む負の遺産としてPCBと石綿は、廃棄物処理における安全性確保に重点がおかれています。PCB問題では、低濃度PCB廃棄物の最新の話題とその確認試験法について、また石綿問題では、最近試験法が改定されていることから、分析法の特徴と今後必要な廃棄物石綿処理に関連してくる確認試験法及びモニタリング法についての課題について最新の情報を話題提供いたします。</p> <p>演題および講演者:</p> <ul style="list-style-type: none"> ① (仮) 低濃度PCB廃棄物に関する現状と課題 酒井伸一(京都大学) ② (仮) 低濃度PCB廃棄物の分析法について 野馬幸生((独)国立環境研究所) ③ (仮) 透過型電子顕微鏡による石綿分析と精度管理 山本貴士・貴田晶子((独)国立環境研究所) ④ (仮) 位相差顕微鏡、X線回折、偏光顕微鏡による石綿分析における課題 (未定) ⑤ (仮) 走査型電子顕微鏡による大気中の石綿分析における課題 豊口敏之((株)環境管理センター) 	
11月19日(月) 15:00-17:00 第4会場	「循環型共生社会における廃棄物計画と地域活性」 (廃棄物計画部会)
<p>趣旨: 三位一体の改革の下で地方分権が進められる中、地域特性を活かした地域独自の廃棄物計画の策定が望まれている。さらに、最近では、バイオマス利活用促進のための地域独自の取組やネットワーク形成が加速化しており、それらが地域活性にまでつながろうとしている。</p> <p>今回の小集会では、</p> <ul style="list-style-type: none"> ①循環型共生社会形成に向けたバイオマス利活用を含めた3Rと適正処理計画を、地域特性を考慮しながらどのようにして構築するか、 ②どのように地域活性に結びつけていくのか <p>について、実際の取組事例を踏まえながら、これら①と②の課題に応える方向で討議する。</p> <p>プログラム:</p> <p>代表挨拶 古市 徹(北海道大学大学院工学研究科)</p> <p>パネルディスカッション</p> <p>コーディネータ 石井 一英(北海道大学大学院工学研究科)</p> <p>パネリスト(予定) 日向寺和裕(稚内市生活福祉部衛生課長)</p> <p>片柳 健一((株)環境管理センター)</p> <p>長谷川 誠((株)イーツーエンジニアリング)</p> <p>中村 恵子(環境カウンセラー)</p>	
11月19日(水) 18:15-20:15 第4会場	「発生抑制をどのように研究するか？」 (社会・経済部会)
<p>趣旨: 循環型社会の形成に向けて、発生抑制・再使用を進めることが求められている。2005年2月の中環審意見具申でもこの点が強調され、また容り法の見直しにおいてもこの点が議論されたが、リサイクルに関する研究と比較しても、発生抑制・再使用に関する実証的な研究は限られているのが現状である。</p> <p>そこで本小集会では、発生抑制・再使用を促進することが期待されている有料化やEPR政策等に関する実証的な研究を報告するとともに、発生抑制の測定や研究方法に関する論点等を整理して、今後の発生抑制・再使用に関する実証研究のあり方について参加者とともに議論したい。</p> <p>報告タイトルおよび報告者:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生抑制の様々な測定方法～OECDの発生抑制指標の議論を踏まえて 渡辺浩平(社会・経済部会、帝京大学) ・ごみ組成調査からみた発生状況の変化と発生抑制に向けた啓発 福岡雅子(大阪工業大学) ・廃棄物発生要因解析へのDecomposition Analysis法の適用 ～飲料容器廃棄物の発生量変化の要因解析例などをもとに～ 田崎智宏((独)国立環境研究所) ・ごみ有料化の発生抑制効果とその測定 山川肇(社会・経済部会、京都府立大学) <p>コーディネータ 山川肇</p>	

研究部会小集会 開催内容一覧(2)

日時・会場	題 目 (開催部会名)
11月19日(月) 18:15-20:15 第5会場	「廃棄物海面埋立処分場の埋立終了と廃止」 (廃棄物埋立処分研究部会)
<p>主旨： 現在、廃棄物の最終処分場の埋立終了・廃止等の基準については、廃棄物処理法に基づき基準省令によって規定されているところであるが、海面処分場における埋立終了・廃止の適用の仕方については、各処分場で異なる考え方が見受けられることから、各処分場における適用実態を把握した上で、適用の考え方を示す必要がある。以上の認識を出発点として平成17年度より「海面最終処分場閉鎖・廃止基準適用検討調査」が実施されており、本小委員会では、調査結果の報告を行うと共に参加者の皆様との議論を行うことを目的としております。</p> <p>プログラム：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 司会挨拶：井上雄三（(独)国立環境研究所） 2. 主旨説明：沖 宏樹（環境省 廃棄物・リサイクル対策部企画課） 3. 調査報告： <ol style="list-style-type: none"> 3-1 調査概要報告 羽染 久（(財)日本環境衛生センター） 3-2 各 論 <ol style="list-style-type: none"> (1)「海面最終処分場の遮水護岸～遮水護岸マニュアル作成の動向～」渡部要一（(独)港湾空港技術研究所） (2)「海面最終処分場の保有水の取り扱い」遠藤和人（(独)国立環境研究所） (3)「海面最終処分場の竣功と管理主体」小田勝也（国土交通省 国土技術政策総合研究所） 4. 討論：（フロアとのディスカッション） 5. まとめと閉会挨拶：井上雄三（(独)国立環境研究所） 	
11月21日(水) 9:45-11:45 第7会場	「処理技術の変遷とその背景を考える」 (ごみ文化研究部会)
<p>趣旨： わが国における一般廃棄物の中間処理は、その主目的がごみ減量あるいは埋立地の延命化対策等として意識され、全国的に広まったのは本格的な機械式連続焼却炉が登場し、かつそれに対応した国の補助金制度の始まった昭和40年代からと言えよう。</p> <p>以後、主としてストーカ炉、さらには流動床炉による焼却処理を中心として、相次ぐ法規制の強化や住民対応として、各種の公害対策設備の充実が図られてきた。また熱利用としての発電も、ごみ質や社会的環境による制約を受けつつも、その普及が図られた。さらに不燃ごみや粗大ごみに対応した処理施設も進展を見ている。</p> <p>しかし平成以後、焼却炉についてはダイオキシン対策として一律的なバグフィルタの導入、また埋立地の逼迫も手伝った灰溶融炉の設置も見られた。さらに少なからぬ自治体が、各種ガス化溶融炉を、従来には見られなかった積極的な新技術導入として、採用した。それに対し、近年はまた次世代型と称するストーカ炉の巻き返しも目立っている。この間、ごみ焼却に対する否定的な見方も広まり、RDF やコンポスト施設などの建設も進められてきた。しかし、一方ではごみ発電に対する期待も生じ、その効率アップも進められている。</p> <p>このような技術の変遷は、あまりにも目まぐるしく、その事後評価はもちろん、理由や背景そのものが十分に伝えられないまま今日に及んでいるように思われる。</p> <p>さらに焼却施設に見られるように、「嫌悪施設」からの脱却をめざした結果としての、高度ではあるが高価な、あるいはエネルギー多消費の施設に対する違和感を生じているのも確かであり、発展途上国の参考にはならないとの意見もある。</p> <p>そこで本小集会では、この半世紀近い処理技術の変遷を振り返り、その発展や節目に当り、取り上げられた課題や特定の技術が採用された理由、背景についての意見を参加者から広くうかがい、今後の当部会の研究課題の参考としたい。</p> <p>プログラム：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 挨拶 松藤 康司（福岡大学） 2 趣旨説明 事務局 3 基調講演 大澤 正明（(財)日本環境衛生センター） 4 会場討議（司会）杉島 和三郎（環境システムエンジニアリング） 	

研究部会小集会 開催内容一覧(3)

日時・会場	題 目 (開催部会名)
11月21日(水) 14:40-16:40 第1会場	「レアメタルの現状とリサイクルの最新の話(仮題)」 (リサイクルシステム・技術研究部会)
<p>趣旨： 希少金属の備蓄や循環利用は大変重要な国家戦略の一つで、鉄鋼添加材料の備蓄や、高機能材料向けのインジウムターゲットや白金などのリサイクルが行われているが、中国でのレアメタルの輸出制限政策への転換などを受け、長期的安定確保への新たな対応が必要となって来ている。本研究会では部会メンバーに加え、非鉄精錬メーカー、家電メーカー、学識経験者などの参加を頂き、現状整理とこれからの新しい技術・社会システムの可能性をテーマに、パネル討論会を開催する。</p> <p>プログラム： 1 部会長挨拶 松藤敏彦(北海道大学) 2 趣旨説明 ワーキング活動報告 G1:法制度、国際循環 G2:リサイクル技術(分離、製錬等) G3:回収、処理の社会システム 3 パネル討論 コーディネータ:遠藤小太郎((社)産業環境管理協会) パネリスト:非鉄製錬メーカー、家電メーカー、リサイクル企業、学識経験者、部会メンバーの5名 (いずれも調整中) 会場との質疑</p>	
11月21日(水) 14:40-16:40 第2会場	「地球温暖化防止における都市ごみサーマルリサイクルの役割の現状と可能性」 (廃棄物焼却研究部会)
<p>趣旨： 世界各地で地球温暖化の影響とみられる異常気象現象が頻発し、温暖化防止が大きな課題として国内外でこれまでになくクローズアップされている。欧州では廃棄物の焼却はEnergy from Wasteと呼ばれ、EUの埋立禁止令もあって廃棄物処理における温暖化物質排出削減の方向性は明確であるといえるが、日本においては廃棄物処理と温暖化の関係について広く一般に認識されているとは言い難い。</p> <p>今回の小集会では、一般廃棄物の中間処理の大部分を占める焼却処理が、サーマルリサイクルとして地球温暖化あるいはその防止に対してどのように寄与するのか、現状と将来の可能性について探る。</p> <p>内容(いずれも予定)： はじめに：高岡昌輝(京都大学) 都市ごみサーマルリサイクルの現状：山形成生((株)神鋼環境ソリューション) 地球温暖化防止と都市ごみサーマルリサイクル：安田憲二((独)国立環境研究所) おわりに：武田信生(立命館大学)</p>	
11月21日(水) 14:40-16:40 第4会場	「進展するバイオマスエネルギーの利用構想(仮題)」 (バイオマス系廃棄物研究部会)
<p>趣旨： バイオマス系廃棄物研究部会ではこれまでに、バイオマス系廃棄物処理の現状把握、新技術としてのバイオマスリファイナリー、バイオマスエネルギーの利用についての調査研究、バイオマス利活用の最新技術とシステム化をテーマとした小集會を開催し、バイオマス利用にかかわる問題点の明確化と要素技術の情報を参加者の間で共有してきた。本年度の小集会ではバイオマスエネルギーの利用に対する期待と課題をキーワードに、進展著しい利用構想について理解を深め、参加者との議論を行うことを目的としている。</p> <p>講師 2～3名(未定)</p>	

研究部会小集会 開催内容一覧(4)

日時・会場	題 目	(開催部会名)
11月21日(水) 14:40-16:40 第5会場	「～再考!! Waste Management～(仮)処理業の許可をめぐる諸問題について」	(行政研究部会)
<p>概要： (仮)処理業の許可をめぐる諸問題について、汚物掃除法～清掃法～廃掃法の制定経緯、当時のごみ処理等、歴史的変遷を踏まえながら、問題提起と今後の方向性について報告する。</p> <p>パネリスト(予定)： 四阿秀雄(東京都)、溝入茂(東京都環境科学研究所)、藤波博(川口市)、松村治夫(日本産業廃棄物処理振興センター)、朴銀花(早稲田大学)、酒井裕子(麻布大学)</p>		
11月21日(水) 14:40-16:40 第6会場	「循環型社会と食育」	(消費者市民研究部会、C & G 共催)
<p>趣旨： 食品リサイクル法の改正、自治体の生ごみリサイクルへの動きなど、有機系廃棄物の3Rが重要な課題となっている。そうした中、最ももったいないごみの一つであり、また家庭ごみの中に占める割合も大きい生ごみの発生抑制は大きな課題であるが、いまだ十分取り組まれているとはいえない。</p> <p>また、食品表示の偽装事件等が社会問題となり、食の安全・安心への関心と不安が高まっている。その一方で、便利さを求めて中食化などの食の簡便化が進み、「いのちをいただく」という食の基本が次の世代へと伝わっていないのではないかとの指摘もある。</p> <p>そこで本小集会では、食育、食農教育を切り口に、こうした食をめぐる問題と循環型社会との接点について、参加者とともに議論してみたい。</p> <p>報告タイトルとパネリスト： <ul style="list-style-type: none"> ●循環型社会と食育 (仮) 高月紘(石川県立大学) ●食農教育と食べ残し ～学校現場の取り組みから～ (仮) 食育に取り組む学校関係者(依頼中) ●農から食を考える ～循環型農業の現場から～ (仮) 循環型農業に取り組む農業関係者(依頼中) ●食材! ?をとことん生かした生活の工夫 (仮) 中村恵子(グリーン・キルト・アーティスト、C&Gエディタ) ●中食化と食育 ～家庭の食生活とごみを考える～ (仮) 消費者市民研究部会 <p>コーディネータ 山川肇(消費者市民研究部会、C&Gエディタ、京都府立大学)</p> </p>		

タイムスケジュール

	第1会場 大会議室101 1F	第2会場 大会議室102 1F	第3会場 中ホール200 2F	第4会場 中会議室 201 2F	第5会場 中会議室 202 2F	第6会場 小会議室 405 4F	第7会場 小会議室303 3F
11月19日 (月)	09:00-13:00 施設見学会						
	12:00- 受付						
	13:15-14:30 A1 住民参加・意識 (1)	13:15-14:45 C1 焼却/ 炭化/溶融	13:15-14:45 A6 廃棄物処理 システム評価	13:00-14:45 小集会 有害廃棄物研究部 会・廃棄物試験検 査法研究部会	13:15-14:30 D1 埋立地構造・設計	13:15-14:30 D7 埋立ガス/ 安定化指標/ 跡地利用	13:15-14:30 B3 汚泥等の資源化
15:00-16:45 A2 住民参加・意識 (2)	15:00-17:00 A7 LCA	15:00-17:00 国際シンポジウム	15:00-17:00 小集会 廃棄物計画部会	15:00-16:30 D3 埋立地浸出水/ 化学物質の挙動	15:00-16:45 D8 不法投棄/ 土壌・地下水汚染	15:00-16:45 B4 その他有機系廃棄 物の資源化	
17:00-18:30 ポスター発表、国際ポスター発表(第1グループ:プログラム中に"ポスター1"と表記):多目的ホール							
			18:15-20:15 小集会 社会・経済部会	18:15-20:15 小集会 廃棄物埋立処分研 究部会	18:15-20:15 若手の会		
11月20日 (火)	09:15-10:45 A3 ごみ発生・性状/ 物質フロー解析	09:15-10:15 C2 排ガス処理/ ダイオキシン類	09:15-10:45 A8 収集運搬/ 処理施設計画/ 災害廃棄物対策	09:15-10:45 B6 無機系廃棄物の 資源化	09:15-10:30 D2 埋立地遮水	09:15-10:30 E1 有害廃棄物処理 (1)	
	11:00-12:15 A9 労働安全衛生	11:00-12:15 C3 焼却残渣の処理/ 資源化	11:00-12:15 A10 国際資源循環	11:00-12:15 B5 廃プラスチックの 資源化	11:00-12:15 D4 埋立地維持管理/ モニタリング	11:00-12:15 E2 有害廃棄物処理 (2)	
	13:15-15:00 特別シンポジウム :大ホール(一般公開) 第1部 法人化・将来構想検討会企画(13:15-14:00) 第2部 特別講演「ごみと地球温暖化」(14:00-15:00) 15:10-16:50 環境省中央環境審議会 循環型社会計画部会主催 公開企画 :大ホール(一般公開)						
17:00-18:30 ポスター発表、国際ポスター発表(第2グループ:プログラム中に"ポスター2"と表記):多目的ホール							
18:40-20:30 意見交換会 :エントランスホール							
11月21日 (水)	09:45-11:45 A4 発生・排出抑制/ 有料化・経済的手 法	09:45-11:45 C4 溶融スラグの資源 化	09:45-11:45 B7 バイオガス化/ バイオマス発電	09:45-11:45 B1 容器包装・家電・ 自動車・建設リサ イクル	09:45-11:30 D5 埋立地安定化 (1)	09:45-11:00 E3 アスベスト/ 感染性廃棄物の処 理	09:45-11:45 小集会 ごみ文化研究部会
	11:45-12:00 平成18年度 廃棄物学会賞 受賞記念講演 奨励賞 山川肇氏		11:45-12:00 平成18年度 廃棄物学会賞 受賞記念講演 論文賞 稲葉陸太氏	11:45-12:00 平成18年度 廃棄物学会賞 受賞記念講演 奨励賞 田崎智宏氏			
	13:00-14:30 A5 廃棄物管理・計画	13:00-14:30 B8 水素発酵/BDF・ エタノール化		13:00-14:30 B2 食品リサイクル/ 生ごみ等の資源化	13:00-14:30 D6 埋立地安定化 (2)	13:00-14:30 E4 有害性試験	13:00-16:40 全国環境研協議会 企画部会廃棄物小 委員会 (廃棄物試験検査 法部会共催企画含 む)
14:40-16:40 小集会 リサイクルシステ ム・技術研究部会	14:40-16:40 小集会 廃棄物焼却 研究部会		14:40-16:40 小集会 バイオマス系廃棄 物研究部会	14:40-16:40 小集会 行政研究部会	14:40-16:40 小集会 消費者市民研究 部会・C&G		

市民展示: 11月19日(月) - 11月21日(水) つくば国際会議場 2階コンコース「市民展示会場」

セッションプログラム

(ポスター1: 1日目発表、ポスター2: 2日目発表、その他は口頭発表)

廃棄物学会賞受賞記念講演

【 11月21日(水) 第1,3,4会場 11:45 - 12:00 】

平成18年度廃棄物学会奨励賞『ごみ有料化研究の展開』
(第1会場)

京都府立大学 山川 肇

平成18年度廃棄物学会論文賞『鉄鋼産業におけるプラスチック製容器包装リサイクルのLCA-システム境界の影響-』
(第3会場)

(独)国立環境研究所 稲葉 陸太

平成18年度廃棄物学会奨励賞『リサイクル促進方策の比較と評価』
(第4会場)

(独)国立環境研究所 田崎 智宏

A1 住民参加・意識(1) 【 11月19日(月) 第1会場 13:15 - 14:30 】

- A 1-1 ライフスタイルから見る環境配慮行動：消費購買行動の類型化による人びとの特徴
北海道大学 ○大沼 進 (株)タクマ 角田 芳忠 北海道大学 松藤 敏彦、加賀谷 文江
- A 1-2 北九州市民環境パスポート事業の展開と都市環境指標の評価
早稲田大学 ○中村 太郎、永田 勝也、永井 祐二、小野田 弘士、寺島 信義、吉田 徳久、金子 正、
福岡 亮美、松岡 俊和 北九州市 重岡 典彰 (株)レセプター 平田 教光
NPO 法人里山を考える会 関 宣昭
- A 1-3 ダンボールコンポスターを活用した環境教育教材の提案
鹿児島大学 ○大前 慶和

ポスター1 A 1-4 生ごみ分別収集の参加規定要因分析
長崎県環境保健研究センター ○竹野 大志 九州大学 堀田 和彦 長崎大学 武政 剛弘

A 1-5 ごみ分別制度の特徴とコスト感がごみ分別行動に与える影響の分析
岩手県立大学 ○篠木 幹子 東北大学 海野 道郎 岩手県立大学 阿部 晃士

A 1-6 昭和戦時下の資源回収—全体像とその仕組み—
ごみ文化研究部会 ○稲村 光郎

ポスター2 A 1-7 資源集団回収における今後の政策展開に関する研究
山形大学 ○川原 誉史、小沢 互

A2 住民参加・意識(2) 【 11月19日(月) 第1会場 15:00 - 16:45 】

ポスター1 A 2-1 リサイクル行動に係る行動変容方策とその促進効果の検討
岡山大学 ○松井 康弘 西日本電信電話(株) 武内 千英 岡山大学 田中 勝、宇野 雄二郎
エコネットワーク津山 松田 信也

ポスター2 A 2-2 一般廃棄物処理事業に対する住民評価の形成に関する調査研究
(株)インテージ ○伊藝 直哉、秋山 貴 (独)国立環境研究所 大迫 政浩
東京工業大学 阿部 直也

A 2-3 消費者の購買行動における情報提供の役割と効果に関する分析
石川県立大学 ○楠部 孝誠 京都大学 佐藤 真行、植田 和弘 石川県立大学 高月 紘
京都大学 新山 陽子

A 2-4 住民の視点からみた廃棄物行政の評価軸の抽出
(株)インテージ ○秋山 貴、伊藝 直哉 (独)国立環境研究所 大迫 政浩
東京工業大学 阿部 直也

A 2-5 一般廃棄物処理の知識と環境行動の相関性に関する基礎的研究
沼津工業高等専門学校 ○大橋 平、渡辺 敦雄

A 2-6 コンジョイント分析による一般廃棄物処理施設に対する住民選好の評価
東京大学 ○山成 素子、磐田 朋子、島田 荘平

ポスター1 A 2-7 陶磁器食器リサイクルにおける住民意識の分析-居住地域差について-
岐阜県セラミックス研究所 長谷川 善一 名城大学 ○一伊達 稔
多治見市 日比野 至、鈴木 良平 グリーンライフ21・プロジェクト 加藤 誠二

A 2-8 陶磁器食器リサイクルに対する住民の意識 - 多治見市の事例 -
岐阜県セラミックス研究所 ○長谷川 善一 名城大学 一伊達 稔
多治見市 日比野 至、鈴木 良平 グリーンライフ21・プロジェクト 加藤 誠二

A 2-9 青森・岩手県境産廃不法投棄に関する田子町民への聞き取り調査
八戸工業大学 ○岩村 満、矢澤 一樹

A 2-10 不法投棄現場の環境再生に関するニーズ調査手法の提案 / 青森・岩手県境不法投棄現場の跡地利用を例として
北海道大学 ○長尾 由加利、古市 徹、石井 一英、谷川 昇

A 3 ごみ発生・ごみ性状/物質フロー解析 【 11月20日(火) 第1会場 09:15 - 10:45 】

- A 3-1 大阪市における建物ストック量の推定
大阪市立大学 ○水谷 聡 大阪大学 前田 親良 大阪市立大学 貫上 佳則
- A 3-2 産業系廃プラスチックの発生、処理・処分にに関する調査(その2)
(社)プラスチック処理促進協会 ○井上 武夫 循環社会研究所 大久保 伸
(社)プラスチック処理促進協会 西谷 吉憲、富田 滋、加納 芳明 塩ビ工業・環境協会 柳 良夫
大洋塩ビ(株) 金子 博 日本ポリエチレン(株) 川口 謹二 (株)プライムポリマー 石川 和利
- ポスター2 A 3-3 高層オフィスビルにおける「きれいなプラスチック」と「その他プラスチック」の分別事例と廃棄物組成
(財)東京都環境整備公社 東京都環境科学研究所 ○茂木 敏 東京都 高橋 昌史
(財)東京都環境整備公社 東京都環境科学研究所 辰市 祐久、中浦 久雄
- A 3-4 小売店・事務所からの廃プラスチック類処理処分の実態調査
(財)東京都環境整備公社 東京都環境科学研究所 ○辰市 祐久 東京都 高橋 昌史
(財)東京都環境整備公社 東京都環境科学研究所 中浦 久雄
- ポスター1 A 3-5 ごみの性状分析におけるばらつきの要因
大阪市立環境科学研究所 ○酒井 護、西谷 隆司、山本 攻
- A 3-6 リン資源の適正管理に向けた市町村レベルでのMaterial Flow Analysis
(株)エックス都市研究所 ○都築 淳 東京大学 佐藤 弘泰、味埜 俊、小貫 元治
- A 3-7 使用済みレジ袋に含まれる鉛とその物質フロー
京都大学 ○浅利 美鈴、佐藤 直巳、酒井 伸一 京都市 山田 一男、瀬川 道信
- A 3-8 二次電池のリサイクル・廃棄動向に関する基礎調査
京都大学 ○宮島 章、浅利 美鈴、平井 康宏、酒井 伸一
- ポスター1 A 3-9 使用済みパソコンの発生とマテリアルフロー
(独)国立環境研究所 ○吉田 綾、田崎 智宏、寺園 淳
- ポスター2 A 3-10 使用済み家電製品の国内フローの推定
(独)国立環境研究所 ○寺園 淳、吉田 綾、森口 祐一

A 4 発生・排出抑制/有料化・経済的手法 【 11月21日(水) 第1会場 09:45 - 11:45 】

- A 4-1 環境配慮設計の定量評価手法の開発
早稲田大学 二又 裕文、○兼子 洋幸、吉田 貴奈、永田 勝也、小野田 弘士
- A 4-2 ディスポーザー使用地域におけるごみの量と性状の変化
(財)日本環境整備教育センター ○楊 新泌、仁木 圭三、岡城 孝雄 南魚沼市 高野 輝幸
森下企業(株) 高橋 俊夫 (株)ロクセイサービス 阿部 清一
- A 4-3 食用油脂分解過程における微生物相と油脂成分の解析
長崎大学 ○村岡 陽 (独)製品評価技術基盤機構 中島 琢自
長崎大学 竹下 哲史、田平 泰広、江口 博、今川 和幸、高良 真也、武政 剛弘
- ポスター1 A 4-4 食品・日用品の発生抑制行動の実態
京都府立大学 ○西井 和浩 (株)プロルート丸光 阿部 桃子 京都信用金庫 河合 満智子
京都府立大学 山川 肇 帝京大学 渡辺 浩平
- A 4-5 エコマネーを活用したリユースびん利用促進の試み
名古屋大学 ○松野 正太郎、竹内 恒夫、河本 広大
- A 4-6 小学校区単位の排出原単位と従量制有料化の効果の分析
ケンブリッジ大学セントエドモンズコレッジ ○渡辺 浩平
- A 4-7 京都市家庭ごみ有料化前後でのごみ減量要因
京都大学 ○森安 洋平 京都府 池松 達人 京都大学 平井 康宏、酒井 伸一
- ポスター2 A 4-8 資源ごみ有料化・分別の排出抑制効果：その他プラスチック製容器包装を対象として
京都府立大学 ○山川 肇 京都市 船越 進吾
- ポスター1 A 4-9 杉並区におけるレジ袋有料化実証実験に関する取組
(株)エックス都市研究所 ○島根 由華、山田 芳幸 (株)電通総研 上田 康裕
杉並区 井山 利秋、山根 洋一
- A 4-10 経済的支援中止後の古紙等の集団資源回収活動に関する研究
大阪工業大学 ○福岡 雅子 (株)地域計画建築研究所 小泉 春洋
- A 4-11 一般廃棄物会計基準等について
環境省 ○高橋 一彰、鈴木 あや子、松澤 裕

A 5 廃棄物管理・計画 【 11月21日(水) 第1会場 13:00 - 14:30 】

- A 5-1 循環型社会に対応した廃棄物詳細品目の類型化の検討(第1報)
(財)日本環境衛生センター ○植木 祥治、立尾 浩一 (独)国立環境研究所 山田 正人、遠藤 和人
福島県 吉津 澄人
- A 5-2 一般廃棄物実態調査結果を用いた廃棄物処理活動別の費用推計
(独)国立環境研究所 ○田崎 智宏、橋本 征二、森口 祐一

- A 5-3 廃棄物系バイオマスを利活用する自治体のリサイクルシステム選択のための ANP 手法の検討
北海道大学 (現 松田産業(株)) ○竹中 康倫
北海道大学 古市 徹、石井 一英、谷川 昇
- A 5-4 公募形式による一般廃棄物処理施設の適地選定
岡山大学 ○石坂 薫、田中 勝
- ポスター2 A 5-5 開発途上国の大都市における一般廃棄物の適正処理方法に関する研究—モンゴル国ウランバートル市を事例として—
東北大学 ○戸敷 浩介、劉 庭秀、セロナ ケビン ロイ
- A 5-6 GIS を用いた河川不法投棄の現状把握
関西大学 ○濱本 淳平、和田 安彦、尾崎 平
- A 5-7 横断のごみ処理システムによる大幅なエネルギー回収・CO2 削減ポテンシャル評価
東京農工大学 ○堀尾 正靱、重藤 さわ子 茨城大学 小林 久 東京農工大学 岡田 久典
パシフィックコンサルタンツ(株) 志賀 光洋、日高 正人

A 6 廃棄物処理システム評価 【 11月19日(月) 第3会場 13:15 - 14:45 】

- A 6-1 ごみ焼却処理施設の現状と課題 ~循環型地域エネルギーシステムを目指して~
パシフィックコンサルタンツ(株) ○志賀 光洋 東京農工大学 堀尾 正靱 茨城大学 小林 久
東京農工大学 岡田 久典、重藤 さわ子
パシフィックコンサルタンツ(株) 日高 正人、桑原 洋享、米田 理津子
- A 6-2 ストーカ炉・灰溶融施設とガス化溶融施設の LCA 評価
関西大学 ○北村 知規、和田 安彦、尾崎 平
- A 6-3 野菜屑を利用した固形バイオマス燃料と製造プロセスの CO2 排出量推算
九州大学 ○古山 隆 (独)産業技術総合研究所 大矢 仁史 東京大学 ドドビバ ジョルジ
- ポスター1 A 6-4 生ごみバイオガス化・有料化導入効果の評価のためのシステム分析
北海道大学 ○佐藤 剛、古市 徹、谷川 昇、石井 一英
- ポスター2 A 6-5 川崎市をモデルとした産業連携による一般廃棄物循環システム研究
廃棄物学会 石渡 和夫 川崎市 山本 隆之 東洋大学 WONG Looi-Fang
(株)エックス都市研究所 ○山口 直久 東洋大学 土田 えりか、柳 奈保子、藤田 壮
- ポスター1 A 6-6 素材産業を活用した動脈・静脈連携システムの設計と評価に関する研究
(財)日本環境衛生センター ○金子 昌示、立尾 浩一 (独)国立環境研究所 大迫 政浩
- A 6-7 家畜排せつ物処理・利用施策における環境・社会便益定量化モデルの開発
東京大学 ○磐田 朋子、島田 荘平
- ポスター2 A 6-8 ANP 手法を用いた廃棄物管理の広域化システム評価
北海道大学 ○佐藤 直生、古市 徹、谷川 昇、石井 一英
- A 6-9 生ごみ等利用発電システムにおける有効エネルギー評価について
環境省 松澤 裕 仙台市 ○山田 健一 環境省 杉岡 賢治
(財)日本システム開発研究所 老松 和俊、庵原 一水
- A 6-10 コンパクト/フレキシブル/ユニバーサルなリサイクルシステム構築に向けた評価指標に関する基礎検討
(独)産業総合技術研究所 ○大矢 仁史 (株)九州テクノロジー 佐藤 明史
(独)産業総合技術研究所 小林 幹男

A 7 LCA 【 11月19日(月) 第2会場 15:00 - 17:00 】

- A 7-1 建築物解体処理における LCI (ライフサイクルインベントリ) 解析
秋田県産業技術総合研究センター ○遠田 幸生 (株)小野建設 小野 尚久
(有)クリーンカンパニー 小野 雅敏
- A 7-2 LCA 評価を用いた豊島廃棄物等処理事業の可視化
早稲田大学 ○西郷 諭、永田 勝也、小野田 弘士、永井 祐二、切川 卓也、吉住 壮史
- A 7-3 廃棄物中間処理技術モデルの不確実性分析及び妥当性の検討 —ストーカ式焼却炉の技術モデルによる
区間推定とプラントメーカー設計値との比較—
岡山大学 田中 勝、松井 康弘、○田中 伴明 九州旅客鉄道(株) 石橋 誠司
パシフィックコンサルタンツ(株) 井伊 亮太、野上 浩典
- A 7-4 一般廃棄物処理システムにおける BAS の提案を目的としたソフトウェアの開発
早稲田大学 小清水 勇、○小沢 俊明、小野田 弘士、永田 勝也
新日鉄エンジニアリング(株) 長田 守弘
- A 7-5 ものと機能の組み合わせに配慮した循環資源の有効利用に関する研究
(独)国立環境研究所 ○藤井 実、稲葉 陸太、南斉 規介、橋本 征二、大迫 政浩、森口 祐一
- A 7-6 廃食用油をはじめとする京都バイオマス有効利用シナリオの LCA 評価
京都大学 ○矢野 順也、平井 康宏、酒井 伸一 (株)アーシン 出口 晋吾 京都市 中村 一夫
- A 7-7 LCA 及びマテリアルバランス表を用いたエコタウン事業の資源循環構造分析
北九州市立大学 ○勝原 英治、松本 亨、松葉 仁志、鶴田 直
- A 7-8 宮城県版廃棄物産業連関の構築
東北大学 ○矢吹 悟、森本 峻、横山 一代、長坂 徹也

A 8 収集運搬 / 処理施設計画 / 災害廃棄物対策 【 11月20日(火) 第3会場 09:15 - 10:45 】

- ポスター1 A 8-1 戸別収集地点における家庭系ごみ搬出行動特性とごみ袋密度の分布
福岡大学 ○鈴木 慎也、山下 雅史、松藤 康司
- A 8-2 住宅地の形成過程がごみ収集地点の配置および住民のごみ搬出距離に与える影響
福岡大学 ○山下 雅史、鈴木 慎也、松藤 康司
- A 8-3 廃棄物処理・リサイクルにおける安全・安心対応に関する研究
早稲田大学 永田 勝也、小野田 弘士、切川 卓也、兼子 洋幸、根岸 貴紀、○村田 寿見雄
- A 8-4 市民参加による都市ごみ中間処理施設 PFI 化に関する議論の推移
大阪工業大学 ○渡辺 信久
- ポスター2 A 8-5 クローズドシステム処分場を資源保管庫として適用した場合の最終処分場延命効果および経済効果に関する検討
(株)竹中土木 ○小嶋 平三 (株)栗本鐵工所 神田 明比古 アジア航測(株) 寺内 将之
J F Eエンジニアリング(株) 白毛 宏和、八田 圭吾 北海道大学 石井 一英
福岡リサイクル総合研究センター 花嶋 正孝 北海道大学 古市 徹
- A 8-6 スーパー広域災害における災害廃棄物の広域連携シミュレーションモデルの構築
人と防災未来センター ○平山 修久 京都大学 河田 恵昭
- ポスター1 A 8-7 東南海・南海地震発生時の津波廃棄物発生量の推定手法に関する研究
京都大学 河田 恵昭 (株)NTT ドコモ関西 小鯛 航太 京都大学 ○鈴木 進吾
人と防災未来センター 平山 修久
- A 8-8 水害廃棄物の発生抑制と減量化に向けた提案
名古屋大学 ○岡山 朋子、成清 幸子
- A 8-9 米国ハリケーン・カトリーナ災害における水害廃棄物処理マネジメント
人と防災未来センター ○近藤 伸也、近藤 民代 (独)防災科学技術研究所 永松 伸吾
人と防災未来センター 平山 修久 京都大学 河田 恵昭

A 9 労働安全衛生 【 11月20日(火) 第1会場 11:00 - 12:15 】

- A 9-1 廃棄物の適正処理と安全管理計画
(財)東京都環境整備公社 ○橋本 治 日本大学理 三橋 博巳
- A 9-2 堆積廃棄物の蓄熱発火危険性評価に関する研究
神奈川県産業技術センター ○清水 芳忠、若倉 正英 東京大学 新井 充
- A 9-3 廃棄物処理施設の爆発・火災事故を対象とした安全管理情報システムの構築
京都大学 ○大下 和徹 京都大学(現 立命館大学) 武田 信生
神奈川県産業技術センター 若倉 正英 横浜国立大学 三宅 淳巳
- A 9-4 VR 技術を活用した体感型運転員教育支援システムの開発について
早稲田大学 永田 勝也、小野田 弘士、切川 卓也、○大川 慶太、吉岡 英輔
- A 9-5 一般廃棄物処理における事故の発生傾向
神奈川県産業技術センター ○若倉 正英、清水 芳忠

A 10 国際資源循環 【 11月20日(火) 第3会場 11:00 - 12:15 】

- A 10-1 海浜漂着人工素材ゴミの調査方法(2) 漂着ゴミの埋没と再露出および流出
鳥取大学 ○岡野 多門、池田 圭吾、築田 哲也、鷹取 正基、安東 重樹、安本 幹
- A 10-2 ベトナム・ハノイにおける家庭系有価物の排出パターンの検証
(株)エックス都市研究所 ○河井 紘輔 (株)松井三郎環境設計事務所 松井 三郎
- A 10-3 使用済ペットボトルの日中間および国内完結型リサイクルシナリオの比較分析
東京大学 ○中谷 隼 (独)国立環境研究所 藤井 実、吉田 綾、寺園 淳、森口 祐一
東京大学 平尾 雅彦
- A 10-4 有害廃棄物等の越境移動：摘発事例の検討
日本貿易振興機構 ○小島 道一 (独)国立環境研究所 村上(鈴木) 理映、吉田 綾
三菱UFJ リサーチ&コンサルティング(株) 佐々木 創 北海道大学 鄭 城尤
- A 10-5 エコインダストリアルパーク(EIP)の類型化に関する検討
(株)九州テクノリサーチ ○池隅 達也、佐藤 明史 北九州市立大学 松永 裕己、松本 亨
- ポスター2 A 10-6 日本海沿岸における海岸漂着ゴミの実態調査
龍谷大学 ○戸次 晃、石垣 智基

B 1 容器包装・家電・自動車・建設リサイクル 【 11月21日(水) 第4会場 09:45 - 11:45 】

- B 1-1 「協働型集団回収」に関する考察
(株)ダイナックス都市環境研究所 山本 耕平、小田内 陽太
スチール缶リサイクル協会 酒巻 弘三、○細田 佳嗣
- B 1-2 容器包装のリサイクル市場の実証分析 指定法人ルート・PET ボトルを事例として
京都大学 ○栗田 郁真
- B 1-3 プラスチック製容器包装の処理に関するエコ効率分析
(社)プラスチック処理促進協会 ○中橋 順一、尾崎 吉美
- ポスター1 B 1-4 廃製品中の金属含有量—パーソナルコンピューターを例に—
(独)国立環境研究所 ○白波瀬 朋子、貴田 晶子
- B 1-5 自動車における ASR 処理の実績評価
早稲田大学 ○安保慧 慧、寺嶋 和彰、切川 卓也、永田 勝也、小野田 弘士
- B 1-6 中国の自動車リサイクル制度の構築における EPR 制度の導入の可能性
東北大学 ○車 佳、劉 庭秀
- B 1-7 韓国の自動車リサイクル制度をめぐる議論と今後の課題
東北大学 ○劉 庭秀、大村 道明 (株)吉村みやぎ自動車リサイクルセンター 吉村 慶一
- ポスター2 B 1-8 日韓の中古車輸出がウランバートル市の環境汚染に与える影響
東北大学 ○Chagtaltulga Davaadash、劉 庭秀、車 佳
- B 1-9 NaOH/エチレングリコールを用いたシュレッターダストの脱ハロゲン処理
東北大学 ○福田 裕三、亀田 知人、吉岡 敏明
- ポスター1 B 1-10 選択的表面酸化-浮遊選別による自動車破砕屑中のポリ塩化ビニルの分離
広島大学 ○奥田 哲士、黒瀬 啓介、M. S. レディ、蔡 宗岳、中井 智司、西嶋 渉、岡田 光正
- B 1-11 浚渫土のセメント系固化材による改良とダイオキシン類の含有量試験結果
東京都土木技術センター ○松村 真人
- ポスター2 B 1-12 建設廃棄物破砕選別残渣の風力選別による品質向上
埼玉県環境科学国際センター ○渡辺 洋一、川寄 幹生、小野 雄策

B 2 食品リサイクル/生ごみ等の資源化 【 11月21日(水) 第4会場 13:00 - 14:30 】

- B 2-1 食品リサイクル制度の見直しの動向
環境省 ○中野 哲哉、松澤 裕、高橋 一彰、中村 真紀、鈴木 あや子
- ポスター1 B 2-2 重力駆動式かくはん・切返し装置と自己切返し反応システムによる大規模コンポスト化装置の開発
東京大学 ○ボンコグゲサクル ナタコーン、石田 哲也
- B 2-3 種々の C/N 比を有する有機物分解反応モデルの開発とコンポスト化過程のシミュレーション
東京大学 ○小林 儀光、ボンゴクゲサクル ナタコーン、石田 哲也
- B 2-4 DGGE 法およびクロン解析法を併用した、大型好気固相反応型生ゴミ処理機内の微生物相の解析
創価大学 ○渡邊 啓子、長尾 宣夫 清水建設(株) 丹羽 千明
創価大学 戸田 龍樹、黒沢 則夫
- B 2-5 生ごみの嫌氣的可溶化・酸生成における温度の影響
創価大学 ○米本 光治、長尾 宣夫 清水建設(株) 丹羽 千明 創価大学 戸田 龍樹
- B 2-6 有機系廃棄物由来溶媒を用いた電子基板の可溶化と金属の回収
(独)産業技術総合研究所 ○加茂 徹 千葉大学 赤石 直也、呉 蓓莉、足立 真理子
(独)産業技術総合研究所 安田 肇 千葉大学 中込 秀樹
- B 2-7 廃 CCA 処理木材の木質成分の再資源化
広島大学 河上 康二郎 広島大学環境安全センター ○奥田 哲士 広島大学 中井智司 中井智司
広島大学環境安全センター 西嶋渉 西嶋渉 広島大学 岡田 光正 (株)ケミカル山本 熊本 直樹
(株)MHI ソリューションテクノロジー 大田 利行
- ポスター2 B 2-8 植物病害の防除効果を持つ機能性コンポストの製造
静岡大学 中崎 清彦、○鈴木 伸章、王 岩鵬、神谷 昌芳
- ポスター1 B 2-9 人工充填材を用いた好気固相反応槽における生ごみの高分解率処理に関する研究
創価大学 ○長尾 宣夫 (有)シーウェル 長 慎一郎 清水建設(株) 丹羽 千明
創価大学 戸田 龍樹
- ポスター2 B 2-10 半連続式好気固相発酵槽を利用した生ごみの分解過程における残存有機物の解析
創価大学 ○二口 裕次郎、長尾 宣夫 (有)シーウェル 長 慎一郎
創価大学 戸田 龍樹、山本 修一

B 3 汚泥等の資源化 【 11月19日(月) 第7会場 13:15 - 14:30 】

- B 3-1 下水汚泥のエネルギー利用システムの比較評価に関する研究
大阪大学 ○岩井 良真、清 和成、惣田 訓、下田 吉之、池 道彦
- B 3-2 下水汚泥炭化材の灰分除去による VOCs 回収効率の向上効果
群馬県立群馬産業技術センター 小松 秀和、○鈴木 崇 群馬県 成澤 篤史、村田 知宏
(株)SOGA 曾我 孝

- B 3-3 ソノフォトキャタリシスによる下水汚泥からのメタン・リンの増進回収
東北大学 ○林 直人、安富 良輔、葛西 栄輝
- B 3-4 家畜ふん焼却灰を原料としたリン含有化合物の作成技術開発と肥料効果
宮崎大学 ○関戸 知雄、土手 裕 菱光石灰工業(株) 貝掛 勝也
- B 3-5 家畜ふん尿の適正管理および有効利用促進のための自動攪拌式堆肥化施設とバイオガス化施設導入効果の検討
北海道大学 ○清水 心太、古市 徹、谷川 昇、石井 一英
- ポスター1 B 3-6 廃食用油を利用した木材防腐剤の環境影響評価
富山県立大学短期大学部 ○楠井 隆史、島 実希 富山県林業技術センター 栗崎 宏
- ポスター2 B 3-7 下水汚泥の乾燥処理による資源化
伊藤忠エネクスホームライフ(株) 奥井 正儀 白髭商店(有) 白髭 成義
活水プラント(株) 飯田 雄巳 四日市大学 ○高橋 正昭
- ポスター1 B 3-8 2段階 pH 調整による高純度リン酸一水素カルシウムの沈殿回収
菱光石灰工業(株) ○貝掛 勝也 宮崎大学 関戸 知雄、土手 裕
- ポスター2 B 3-9 亜臨界処理による養豚ふん尿の可溶化の検討
宮崎大学 ○後藤 吉史、土手 裕、関戸 知雄

B 4 その他有機系廃棄物の資源化 【 11月19日(月) 第7会場 15:00 - 16:45 】

- B 4-1 異なったコンポストから作製されたコンポストティ어의抗菌作用についての考察
富山県立大学短期大学部 ○立田 真文 富山県立大学 佐藤 幸生
- B 4-2 ホタテガイ由来セルラーゼを用いたセルロース性資源の同時糖化発酵
静岡大学 ○柳澤 満則、小林 弘二 北海道大学 尾島 孝男 静岡大学 中崎 清彦
- ポスター1 B 4-3 浮選による有機懸濁物質の分離・濃縮に関する基礎的研究 — 希薄な有機 SS を含む排水処理への適用可能性について —
京都大学 ○日下 英史 京都大学 横井 惇
- B 4-4 農業利用の観点からみた堆肥及び液肥の需給バランス試算—長崎県を事例として—
長崎大学 ○遠藤 はる奈、中村 修
- ポスター2 B 4-5 木質バイオマスからのブタノール異性体の同時生産菌株のスクリーニング
龍谷大学 ○椋山 悠、石垣 智基
- ポスター1 B 4-6 未利用海藻の水中での超音波処理による液状化
三重県科学技術振興センター ○男成 妥夫
- ポスター2 B 4-7 グルコースの高温高压水場における安定性の調査
熊本大学 ○斉藤 崇、川鍋 宏明、吉野 優樹、佐々木 満、後藤 元信
- B 4-8 塩素不含ゴムとの共液化による含塩素ゴムの脱塩素処理 水素供与源の影響
日本大学 ○松田 拓巳、飯田 雅之、小林 美江、菅野 元行、平野 勝巳、真下 清
山下ゴム(株) 福本 勉、藤田 将治
- B 4-9 カキイカダ廃竹炭化物を添加した藻礁ブロックの機能と現場設置実験
広島工業大学 ○山崎 一穂、今岡 務、鶴田 聡、江川 貴章
- ポスター1 B 4-10 薬剤含浸処理を利用した段ボール活性炭の作成
名古屋市工業研究所 ○山口 浩一
- ポスター2 B 4-11 コーヒーかすを原料とするイオン交換炭素材料の特性
日本植生(株) ○横山 理英、林 聡、岩田 知之 静岡県農林技術研究所 高橋 智紀
岡山大学 高田 潤
- B 4-12 籾殻からの高純度非晶質シリカの生成プロセスに関する研究
大阪大学 ○梅田 純子、近藤 勝義 栗本鐵工所 道浦 吉貞
- B 4-13 ホタテの貝殻を用いたスラグ改良土の軽量化及び流動化に関する研究
八戸工業大学 ○矢澤 一樹 八戸工業高等専門学校 丹野 忠幸
八戸工業大学 金子 賢治、熊谷 浩二

B 5 廃プラスチックの資源化 【 11月20日(火) 第4会場 11:00 - 12:15 】

- ポスター1 B 5-1 ホットメルト粘着剤の開発に向けた廃発泡スチロールと天然ゴムのアロイ化
宇都宮大学 ○大崎 佳幸、木村 隆夫
- B 5-2 使用済農業用ポリエチレンフィルムの乾式土壤分離技術の開発
(社)プラスチック処理促進協会 ○山脇 隆、尾崎 吉美 新第一塩ビ(株) 大和 多実男
信越化学工業(株) 馬場 誠
- ポスター2 B 5-3 フィルム状の混合プラスチックからの塩素系プラスチックの選別
広島大学 山口 剛史 環境安全センター 蔡 宗岳、○奥田 哲士、西嶋 涉 広島大学 岡田 光正
- B 5-4 架橋ポリエチレンの自己燃焼熱分解法によるワックス化と特性評価
(社)電線総合技術センター ○馬場 俊之 中部電力(株) 立岩 浩司
- B 5-5 PVC と PET を含む廃プラ油化処理施設の再資源化の現状と課題
札幌プラスチックリサイクル(株) ○福島 正明、塩谷 操、若井 慶治

- ポスター1 B 5-6 廃棄プラスチック製品から流出する有害可塑剤のリサイクル処理技術
日本大学 ○花房 秀和、沼田 靖、田中 裕之
- ポスター2 B 5-7 F R P 亜臨界水分解リサイクルプロセスの反応条件と装置化の検討
松下電工(株) ○真継 伸、宮崎 敏博、日高 優、矢野 宏
- B 5-8 超臨界アルコールを用いた廃シラン架橋ポリエチレンのリサイクル技術開発
日立電線(株) ○芦原 新吾、後藤 敏晴 東日京三電線(株) 富松 健一、伊藤 宏幸
- ポスター1 B 5-9 塩ビ壁紙廃材から得られた活性炭化物の性能について
(株)クレハ環境 福田 弘之、○石橋 丈厚、瀬尾 郁夫、山崎 彰、安藤 暁宏
- ポスター2 B 5-10 塩ビ壁紙廃材からの活性炭構造プロセスの開発(第4報)
(株)クレハ環境 福田 弘之、○佐々木 千聡、山崎 彰、瀬尾 郁夫、安藤 暁宏
- ポスター1 B 5-11 深層水中における生分解性プラスチックの分解およびプラスチック分解菌の単離
東京海洋大学 ○関口 峻允、兼廣 春之、榎 牧子 富山県水産試験場 野村 幸司
水産総合研究センター 渡部 俊広
- B 5-12 事業系プラスチック廃棄物リサイクルのための小口回収システムのモデル実証
(社)プラスチック処理促進協会 ○尾崎 吉美、山脇 隆、中橋 順一、三浦 孝廣
東京都環境局 船戸 芳夫、所 賢二

B 6 無機系廃棄物の資源化 【 11月20日(火) 第4会場 09:15 - 10:45 】

- B 6-1 フライアッシュなど産業副産物のポゾラン性能評価について
東京理科大学 南部 正光 太平洋セメント(株) ○田野崎 隆雄 華南理工科大学 林 錦眉
(財)電力中央研究所 山本 武志 電源開発(株) 石川 嘉崇
- ポスター1 B 6-2 フレームジェットによる貝殻の粉碎・再資源化
三央産業(株) 平山 善章 (株)エスケータック 佐藤 晃一 東京大学 ○島田 莊平
- B 6-3 廃石膏ボード等建設系廃棄物の道路舗装材への再利用の検討
広島工業大学 今岡 務 (株)マエダ 広田 成巳 山陽工営(株) 新畑 貴史
日本道路(株) 西本 敏幸、長江 力、恵谷 紀文 (株)ヒロコン ○細井 啓示
- B 6-4 乾式・湿式処理を組み合わせた製錬残渣物からの金属回収と処理フローに関する実験的検討
秋田大学 ○柴山 敦、小野 瑛基、田中 康裕 合同資源産業 大和谷 温、樋口 康則、砂川 茂
- B 6-5 石膏廃材から作成した硫化カルシウムによるめっき廃水中の重金属硫化処理
名古屋大学 ○三原 直人、征矢 勝秀 (株)三進製作所 福田 正
名古屋大学 窪田 光宏、Dalibor Kuchar、松田 仁樹
- B 6-6 金属系工場廃水の電解処理に関する研究
長崎大学 ○甲斐 穂高 長崎総合科学大学 石橋 康弘 長崎県工業技術センター 大脇 博樹
長崎大学 武政 剛弘
- B 6-7 強塑性加工によるマグネシウム合金切削屑からの高強度マグネシウム展伸材の創製
大阪大学 ○近藤 勝義、川端 健詞 栗本鐵工所(株) 金子 貫太郎、藤井 徳雄
- ポスター2 B 6-8 発泡ガラスの汚濁水浄化微生物膜バイオリクター固定化担体への利用
東京家政大学 ○村上 和雄 法政大学 成田 素子 (株)内山アドバンス 斉藤 丈士、白鳥 秀幸
矢崎総業(株) 飯塚 弘 (株)内山アドバンス 根本 明、女屋 秀明、浅見 保子
東京家政大学 佐藤 薫、山内 英津子
- ポスター1 B 6-9 使用済みゴムクローラの切断・分離技術に関する研究-大別分離装置の開発-
生研センター ○藤井 幸人、大西 正洋、後藤 隆志 農林水産技術情報協会 小倉 昭男

B 7 バイオガス化/バイオマス発電 【 11月21日(水) 第3会場 09:45 - 11:45 】

- ポスター2 B 7-1 不法投棄廃棄物のバイオガス化検討のためのメタン発生量と残渣性状の実験的検討
北海道大学 ○杉本 知輝、古市 徹、谷川 昇、石井 一英
- ポスター1 B 7-2 不適正最終処分場等の修復・再生システムの一環としてのバイオガスの回収の可能性の検討(3)
静岡理工科大学 ○惣田 昱夫、北村 昌俊 北海道大学 古市 徹、石井 一英
- ポスター2 B 7-3 最終処分場埋立廃棄物のバイオガス化の適用可能性の検討
北海道大学 ○谷川 昇、古市 徹、石井 一英、戸田 佑紀
- ポスター1 B 7-4 高温メタン発酵における高濃度油脂含有原料の安定発酵技術
富士電機水環境システムズ(株) 石川 冬比古
富士電機アドバンステクノロジー(株) ○富内 芳昌、小松 正
- ポスター2 B 7-5 即席麺製造工場から廃棄される麺屑と揚げ油のメタン発酵処理
日本工業大学 ○前田 宏樹、佐藤 茂夫
- ポスター1 B 7-6 低ランニングコスト型消化ガス発電システムの開発
鹿島建設(株) ○菅野 一敏、塩山 欣春 JFEエンジニアリング(株) 山本 勝一郎、長藤 雅則
アタカ大機(株) 小泉 佳子、河窪 義男 ダイネン(株) 村上 忠弘
- ポスター2 B 7-7 海藻基質を用いた嫌気消化における基質破碎方法の違いによる影響
創価大学 ○泉 光一、長尾 宣夫 清水建設(株) 丹羽 千明 創価大学 戸田 龍樹

- B 7-8 有機性固形廃棄物の無希釈中温メタン発酵に関する研究
鹿島建設(株) ○宮野 寛、多田羅 昌浩、倉持 和博
- B 7-9 水素・メタン二段発酵法による食堂残飯と紙ごみの処理性能解析
(株)荏原製作所 ○片岡 直明 荏原エンジニアリングサービス(株) 菖蒲 昌平
(株)荏原総合研究所 宮 晶子 (株)荏原製作所 米山 豊
- B 7-10 中温メタン発酵における紙の分解特性
アタカ大機(株) ○八巻 昌宏、西崎 吉彦、奥野 芳男
- B 7-11 有機系廃棄物のバイオガス発生量評価手法の検討 ―一回分実験における種汚泥の影響と有機物分解率の考察―
北海道大学 ○玉田 昭太郎、古市 徹、谷川 昇、石井 一英
- B 7-12 バイオマス利活用施設「日田市バイオマス資源化センター」の運転状況
(株)神鋼環境ソリューション ○川嶋 淳、山下 哲生、宇良 伸之、斉藤 彰
- B 7-13 余剰活性汚泥を植種源としたメタン発酵槽のスタートアップ方法
東北大学 ○安田 大介、北條 俊昌、李 玉友、原田 秀樹
(社)地域資源循環技術センター 岡庭 良安
- B 7-14 横須賀市における生ごみの資源化に関する研究(第4報)
横須賀市 山野井 徹 住友重機械工業(株) 熊坂 健一
住友重機械エンパイロメント(株) ○竹田 久人、三井 昌文
- B 7-15 メタン発酵残渣の適正処理法としての亜臨界水酸化技術の実用化研究
清水建設(株) ○隅倉 光博、渋谷 勝利 長崎菱電テクニカ(株) 大坪 正幸、野口 博徳
静岡大学 岡島 いづみ、佐古 猛

B 8 水素発酵 / BDF・エタノール化 【 11月21日(水) 第2会場 13:00 - 14:30 】

- B 8-1 水素発酵に用いる嫌気性マイクロフローラの優先化手法の検討
東京農工大学 ○鹿島 裕之、東城 清秀、渡邊 兼五
- ポスター1 B 8-2 反復回分培養によるバイオマスからの水素生成微生物群集の獲得
龍谷大学 ○中村 拓郎、山本 陽介 大阪大学 澤村 啓美、池 道彦 九州大学 成岡 朋弘
(独)国立環境研究所 山田 正人 龍谷大学 石垣 智基
- B 8-3 小麦フスマを基質とする連続水素・メタン二段発酵の検討
神奈川県環境科学センター ○渡邊 久典、田所 正晴
- ポスター2 B 8-4 ラマン分光法による発酵気体の定量
日本大学 ○真島 浩、沼田 靖、田中 裕之
- B 8-5 バイオマス系廃棄物からの水素生成反応の促進に関する研究
龍谷大学 ○山本 陽介、石垣 智基 大阪大学 澤村 啓美、池 道彦 九州大学 成岡 朋弘
(独)国立環境研究所 山田 正人
- B 8-6 バイオエタノール生産のための植物系廃棄物の酵素による糖化
岐阜大学 ○石川 恵里 (株)明治製菓 田村 隆由 岐阜大学 中村 浩平、高見澤 一裕
- B 8-7 種菌を接種しない食品廃棄物の水素発酵に pH 制御が及ぼす影響
東北大学 ○清水 哲、水野 修、亀田 知人、吉岡 敏明
- ポスター1 B 8-8 廃棄物系油脂類に対するバイオディーゼル燃料原料としてのポテンシャル評価
(独)国立環境研究所 倉持 秀敏 (財)廃棄物研究財団 島宗 敬太郎
日本技術開発(株) 坂田 幸久、久保島 賢 (独)国立環境研究所 ○大迫 政浩
- B 8-9 トラップグリースモデルからの新規バイオディーゼル燃料製造技術に関する基礎的検討
(独)国立環境研究所 ○倉持 秀敏、崔 基仁、大迫 政浩 兵庫県立大学 前田 光治
京都市 中村 一夫 京都大学 酒井 伸一

C 1 焼却 / 炭化 / 溶融 【 11月19日(月) 第2会場 13:15 - 14:45 】

- C 1-1 マイクロ波による紙おむつの炭化処理
佐賀大学 ○山田 竜蔵、浦崎 浩史、セバスチャン ポペスク、三沢 達也、大津 康徳、藤田 寛治
- ポスター2 C 1-2 廃木材と鶏糞の炭化処理昇温速度およびその炭化物着火特性に関する研究
埼玉大学 ○王 青躍、飯島 敦史、黒川 秀樹、関口 和彦、坂本 和彦
(独)国立環境研究所 中島 大介
- C 1-3 脱塩素化後の炭素残渣からカリウム賦活で作製した活性炭の性能
豊橋技術科学大学 ○角田 範義、伊藤 洋樹、大北 博宣、水嶋 生智
- C 1-4 排ガス中における多環芳香族化合物のニトロ化特性
(独)国立環境研究所 ○安田 憲二、石川 紀子、川本 克也
- C 1-5 廃棄物ガス化改質用ニッケル系触媒の耐久性性能評価
(独)国立環境研究所 ○小林 潤、川本 克也 東北大学(瀋陽) 呉 畏
- C 1-6 ベンチスケール廃棄物ガス化装置における改質触媒適用効果
(独)国立環境研究所 ○川本 克也、小林 潤 日立造船(株) 福島 龍太郎、田中 新吾
- ポスター1 C 1-7 触媒を用いた還元雰囲気下におけるガス中芳香族炭化水素類の分解

- (独)国立環境研究所 ○井上 研一郎、川本 克也
- ポスター2 C 1-8 廃プラスチックの灰溶融炉化学原料化プロセスのライフサイクルインベントリー評価
京都大学 ○高岡 昌輝 京都大学 (現 シャープ(株)) 萩原 崇博 京都大学 大下 和徹
京都大学 (現 立命館大学) 武田 信生 京都大学 松本 忠生
- ポスター1 C 1-9 過給機を使った加圧流動炉の下水汚泥燃焼実験
三機工業(株) ○小関 多賀美 月島機械(株) 長沢 英和 (独)土木研究所 落 修一
(独)産業技術総合研究所 鈴木 善三
- C 1-10 大型ガス化溶融施設におけるダイオキシン類抑制と高効率発電
新日鉄エンジニアリング(株) ○柏原 友、真名子 一隆、小畑 弘之、長田 守弘
北九州市 竹内 眞介、三島 達哉

C 2 排ガス処理 / ダイオキシン類 【 11月20日(火) 第2会場 09:15 - 10:15 】

- C 2-1 廃棄物焼却炉におけるニトロ多環芳香族炭化水素化合物について
(独) 国立環境研究所 ○渡部 真文、川本 克也、野馬 幸生
- ポスター2 C 2-2 排ガス中有機ハロゲン化合物のサンプリング法について
大阪市立環境科学研究所 ○高倉 晃人 電源開発(株) 名久井 博之、小山 博紀、渡部 剛
大阪工業大学 渡辺 信久
- ポスター1 C 2-3 排ガス中有機ハロゲンの連続サンプリングおよびその測定
(独)国立環境研究所 川本 克也、○依田 育子
- C 2-4 廃棄物焼却炉立上げ時における排ガス中のダイオキシン類と有機ハロゲン化合物の連続同時測定
電源開発(株) ○名久井 博之 (株)日鉄技術情報センター 鈴木 悟
(財)日本品質保証機構 浅田 正三 (財)日本環境衛生センター 藤吉 秀昭
三機工業(株) 宮田 治男 大阪工業大学 渡辺 信久 (独)国立環境研究所 川本 克也
- C 2-5 排ガス処理による水銀排出低減効率の統計的代表値とダイオキシン対策による影響評価
九州大学 ○高橋 史武 (独)国立環境研究所 貴田 晶子 九州大学 島岡 隆行
- C 2-6 溶融排ガス中の重金属類・ダイオキシン類の挙動
(財)三重県環境保全事業団 杉田 啓一、黒木 清篤 (株)クボタ ○黒石 智、寶正 史樹
- ポスター2 C 2-7 高温集塵を採用した二段階捕集における焼却排ガス中重金属と塩類の分離
新日鉄エンジニアリング(株) ○牧志 諒
北海道大学 東條 安匡、岡田 敬志、松尾 孝之、松藤 敏彦
(株)タクマ 角田 芳忠、鮫島 良二、渡辺 純、引田 浩之

C 3 焼却残渣の処理 / 資源化 【 11月20日(火) 第2会場 11:00 - 12:15 】

- ポスター1 C 3-1 粉末ブリケット - 蛍光 X 線法による都市ごみ焼却灰の分析 -成分組成の月間変動-
明治大学 ○大淵 敦司、中村 利廣
- C 3-2 アミノ酸を添加した燃焼灰の樹木成長への利用について
王子製紙(株) ○篠村 善徳、西条 良彦、三角 真代、岩崎 誠、浅田 隆之
- ポスター2 C 3-3 都市ごみ焼却灰に含まれる放射性核種
明治大学 ○永井 幸太、岩鼻 雄基、栗原 雄一、高橋 賢臣、大淵 敦司 東京大学 小池 裕也
明治大学 佐藤 純、中村 利廣
- C 3-4 焼却灰の焼成による再資源化と最終処分場埋立技術の開発
大成建設(株) ○檜垣 貫司 パシフィックコンサルタンツ(株) 日高 正人
(株)不動テトラ 松浦 彰男
- ポスター1 C 3-5 都市ごみ焼却飛灰に含まれるウラン・トリウム同位体の定量
明治大学 ○栗原 雄一、高橋 賢臣、永井 幸太、岩鼻 雄基、大淵 敦司
東京大学 小池 裕也 明治大学 佐藤 純、中村 利廣
- ポスター2 C 3-6 都市ごみ焼却灰の組成改変を伴う水熱処理による鉱物生成と重金属安定化の試み
九州大学 ○江藤 次郎、島岡 隆行
- C 3-7 溶融飛灰中レアメタル類の資源的価値
(独)国立環境研究所 ○鄭 昌煥、大迫 政浩
- ポスター1 C 3-8 炭酸化処理した焼却飛灰セメント固化物からの金属類の溶出挙動-拡散溶出試験による評価-
大阪市立大学 植村 政也、水谷 聡、○山田 攻男、貫上 佳則
- ポスター2 C 3-9 家畜ふん焼却灰からのリン回収物の鉛除去特性
宮崎大学 ○津波古 敦信、土手 裕、関戸 知雄
- C 3-10 MAS-NMR による石炭フライアッシュ中のホウ素の存在形態分析
東北大学 ○柏倉 俊介 東北大学 前川 英己 東北大学 横山 一代、長坂 徹也
- C 3-11 海面埋立石炭灰の性状と有効利用に関する基礎的研究
(株)間組 ○斉藤 栄一 九州大学 島岡 隆行、井手元 真吾 (株)エコアッシュ 長 稔

C 4 溶融スラグの資源化 【 11月21日(水) 第2会場 09:45 - 11:45 】

- C 4-1 スラグからの6価クロムの溶出抑制に関する基礎的研究
龍谷大学 ○水原 詞治、占部 武生
- C 4-2 産廃スラグ中の重金属元素の存在形態
千葉科学大学 ○安藤 生大、地下 まゆみ、上野 宏共 DOWA エコシステム千葉(株) 原 雄
ジャパン・リサイクル(株) 植木 茂、荒金 勝義、中野 健一
- C 4-3 一般廃棄物溶融スラグの有害物質評価とその対策
北海道立工業試験場 ○高橋 徹、富田 恵一、若杉 郷臣、長野 伸泰、工藤 和彦
- C 4-4 ごみ溶融スラグを主原料とした固化体について
鹿児島工業高等専門学校 ○前野 祐二、長山 昭夫 都城工業高等専門学校 森 寛
鹿児島工業高等専門学校 三原 めぐみ
- C 4-5 産廃溶融スラグの建設材料としての品質
宮城大学 ○北辻 政文 溶融スラグ石材研究会 上埜 秀明
- C 4-6 下水汚泥焼却灰の溶融処理を用いたリン肥料の作製条件の明確化及び環境安全性の評価
長岡技術科学大学 ○姫野 修司 三機工業(株) 楠田 浩司
長岡技術科学大学 露崎 知広、小松 俊哉 (株)東京設計事務所 藤田 昌一
- ポスター1 C 4-7 品質改善処理を行った溶融スラグのコンクリート用骨材への適用
(株)間組 ○佐々木 肇 (株)フローリック 藤田 康彦 福祉商事(株) 関 勇治
日本鑄造(株) 佐藤 良雄
- C 4-8 廃コンクリート微粉末の溶融スラグ化によるリサイクル
岩手大学 羽原 俊祐、○廣瀬 裕之、小山田 哲也、平塚 貞人
日本原子力発電(株) 伊東 賢伸、須永 修吾、藤原 一成
- C 4-9 徐冷した不法投棄物溶融スラグのコンクリート製品への利用
(地独)岩手県工業技術センター ○八重樫 貴宗、菅原 龍江、平野 高広、白藤 裕久
岩手県環境保健研究センター 佐々木 秀幸 岩手大学 藤原 忠司、小山田 哲也
- ポスター2 C 4-10 水砕した不法投棄物溶融スラグのコンクリート製品及びアスファルト混合物への利用
(地独)岩手県工業技術センター ○菅原 龍江、八重樫 貴宗、平野 高広、白藤 裕久
岩手県環境保健研究センター 佐々木 秀幸 岩手大学 藤原 忠司、小山田 哲也

D 1 埋立地構造・設計 【 11月19日(月) 第5会場 13:15 - 14:30 】

- D 1-1 最終処分場候補地選定における地下水流動評価の適用に関する一考察
(財)日本環境衛生センター 羽染 久、八村 智明 (株)地圏環境テクノロジー 森 康二、八城 正幸
北九州市立大学 ○伊藤 洋
- D 1-2 クローズド型処分場の安定化モデルにおけるマクロレベルでの洗出しに関する研究
(株)奥村組 ○大塚 義一 北海道大学 石井 一英、古市 徹
(財)福岡県環境保全公社リサイクル総合研究センター 花嶋 正孝
- D 1-3 種々の遮水シートに関するコンクリート固定工の固定能力実験
宇都宮大学 ○今泉 繁良、関谷 正、吉直 卓也 鹿島建設(株) 伴野 茂、若林 秀樹、辻本 宏
- ポスター1 D 1-4 クローズドシステム処分場における廃棄物安定化指標の調査研究(その3)
クローズドシステム処分場開発研究会 ○小日向 隆、柳瀬 龍二、石井 一英、花嶋 正孝、古市 徹
- D 1-5 海面最終処分場の保有水管理に関する一考察
(独)国立環境研究所 ○遠藤 和人、山田 正人、井上 雄三
- D 1-6 ベントナイトを添加した焼却灰溶融スラグの土質特性
応用地質(株) ○猪狩 富士夫 宇都宮大学 今泉 繁良、柳田 翔

D 2 埋立地遮水 【 11月20日(火) 第5会場 09:15 - 10:30 】

- D 2-1 特殊止水材を用いた袋状二重遮水シートの損傷孔の補修方法の開発
若築建設(株) ○木俣 陽一、渡邊 陽二郎 (株)大林組 黒岩 正夫、大西 健司
太洋興業(株) 下田 宏治、吉田 和久 東ソー・ニッケミ(株) 近藤 三樹郎
- D 2-2 電気検知システムを用いた袋状二重シートの補修完了確認技術の開発
(株)大林組 ○大西 健司、黒岩 正夫 若築建設(株) 木俣 陽一、渡邊 陽二郎
太洋興業(株) 下田 宏治、吉田 和久 東ソー・ニッケミ(株) 近藤 三樹郎
- D 2-3 ベントナイトブロックの膨潤特性
西武建設(株) ○成島 誠一 (財)地域地盤環境研究所 藤原 照幸 (株)ホージュン 水野 正之
- ポスター2 D 2-4 最終処分場におけるベントナイト混合土の品質管理手法
清水建設(株) ○米永 弘、大野 文良、川崎 廣貴
- D 2-5 変形したベントナイト混合土の遮水性能
特定非営利活動法人最終処分場技術システム研究協会 宇佐見 貞彦、○工藤 賢悟、今泉 繁良、
加藤 啓樹、柴田 健司

- ポスター1 D 2-6 大型土槽を用いた遮水シートの引き抜き実験のFEM解析
国土交通省 小田 勝也 五洋建設(株) ○吉田 誠、三藤 正明、秋本 哲平
- D 2-7 基礎杭打設による海面処分場の底面遮水工に与える影響 (その2)
中電技術コンサルタント(株) ○葛川 徹 呉工業高等専門学校 森脇 武夫
広島県立総合技術研究所 岡本 拓 (株)日本触媒 服部 晃、岡本 功一
中電技術コンサルタント(株) 渡辺 修士、平尾 隆行

D 3 埋立地浸出水 / 化学物質の挙動 【 11月19日(月) 第5会場 15:00 - 16:30 】

- ポスター2 D 3-1 最終処分場浸出水の成分濃度の時系列変化と降水量との関係
千葉県環境研究センター ○栗原 正憲、大石 修
- D 3-2 最終処分場浸出水中の塩類による植物影響評価
岡山大学 ○出雲 貴巳、毛利 紫乃、小野 芳朗
- D 3-3 実埋立試料採取分析によるキレート処理溶融飛灰の長期安定性に関する調査研究
(株)環境管理センター ○辻本 浩子、王 寧 (独)国立環境研究所 肴倉 宏史、大迫 政浩
- D 3-4 不燃ごみ主体の埋立処分に伴う浸出水の水質特性に関する研究(1)
福岡大学 ○柳瀬 龍二、松藤 康司
- ポスター1 D 3-5 粗大・不燃ごみの不燃破砕残渣の性状と埋立時の溶出特性
明星大学 ○宮脇 健太郎、廣瀬 佑太
- ポスター2 D 3-6 有機性脱塩促進剤による都市ごみ焼却灰中の難溶性塩素化合物の消長
九州大学 ○成岡 朋弘 九州大学(現太平洋セメント(株)) 竹本 智典
九州大学 江藤 次郎、島岡 隆行
- ポスター1 D 3-7 最終処分場浸出水の有機汚濁成分捕捉能からみた関東ローム各層準の特徴
早稲田大学 ○馬場 直紀、香村 一夫 埼玉県環境科学国際センター 川崎 幹生、小野 雄策
- D 3-8 セメント固化灰中に含まれる多環芳香族炭化水素類の溶出機構
(独)国立環境研究所 ○小瀬 知洋 化学技術振興機構 姉川 彩 岡山大学 毛利 紫乃、小野 芳朗
- ポスター2 D 3-9 廃棄物シュレッダーダストからのフェノール類の溶出挙動に関する研究
愛媛大学 ○小林 一樹、大西 豊 京都大学 西村 文武 高知大学 藤原 拓
岡山大学 小野 芳朗
- ポスター1 D 3-10 ポリ塩化ビニル製品からのフェノール、ビスフェノールAの溶出に及ぼす温度影響
愛媛大学 ○大西 豊 京都大学 西村 文武 高知大学 藤原 拓 岡山大学 小野 芳朗
- D 3-11 廃棄物処分場から排出される微量有機化合物の相分配
東北工業大学 ○内田 美穂
- D 3-12 焼却施設における1,4-ジオキサン生成・除去メカニズムの検討
高知大学 ○玉田 徹、尾田 修一、藤原 拓 埼玉県環境科学国際センター 倉田 泰人、小野 雄策
岡山大学 小野 芳朗 (独)国立環境研究所 小瀬 知洋 京都大学 西村 文武
高知大学 大年 邦雄
- ポスター2 D 3-13 紫外線/過酸化水素法による廃水中の1,4-ジオキサンの分解
(株)クボタ 吉崎 耕大、中河 浩一、○堀井 安雄
- ポスター1 D 3-14 異なる材質のプラスチックによる有機化学汚染物質の吸着
東京海洋大学 ○早坂 創、兼廣 春之、榎 牧子
- ポスター2 D 3-15 多段型紫外線/オゾン塔におけるオゾン吸収特性に関する研究
(株)クボタ ○中河 浩一、吉崎 耕大、堀井 安雄

D 4 埋立地維持管理 / モニタリング 【 11月20日(火) 第5会場 11:00 - 12:15 】

- D 4-1 管理型産業廃棄物最終処分場における経過期間と浸出水水質の相関分析
福井県衛生環境研究センター ○田中 宏和、田中 博義、橋 治廣 福井県環境政策課 中屋 亮二
(独)国立環境研究所 山田 正人、遠藤 和人 福井資源化工(株) 大家 清紀、小林 克至
- D 4-2 処分場排水の塩分が公共用水域の不特定水利に及ぼす影響
山本環境カウンセラー事務所 ○山本 勝彦
- ポスター1 D 4-3 廃棄物最終処分場再生を目的とした先端着脱式鋼管ケーシングによる多目的井戸設置技術の開発
東急建設(株) ○椿 雅俊、濱地 弘章、下村 達也 旭化成建材(株) 梅田 雅芳
旭化成基礎システム(株) 松本 一成
- D 4-4 不適正な最終処分場周辺地域における表層堆積物中の重金属濃度とそれを用いた環境汚染リスクの時系列的検討
早稲田大学 ○香村 一夫、坂巻 洋翠、前田 圭佑
千葉県環境研究センター 依田 彦太郎、佐藤 賢司 千葉県 石渡 康尊
千葉県環境研究センター 栗原 正憲
- ポスター2 D 4-5 長期の比抵抗モニタリングによる廃棄物層の性状変化把握
早稲田大学 ○河村 陽介、杉崎 真幸、香村 一夫
千葉県環境研究センター 依田 彦太郎、栗原 正憲

- ポスター1 D 4-6 廃棄物層調査における電磁探査法の適用事例
 千葉県環境研究センター ○大石 修、依田 彦太郎、佐藤 賢司
 千葉県南房総県民センター 石渡 康尊 千葉県環境研究センター 栗原 正憲
 (独)国立環境研究所 山田 正人、遠藤 和人
 埼玉県環境科学国際センター 川寄 幹生、磯部 友護、小野 雄策、米倉 哲志
 (株)テクノアース 前田 正男
- ポスター2 D 4-7 ガス抜き管内貯留水の水質による安定化モニタリングの可能性
 北海道大学 ○佐藤 昌宏、東條 安匡、松尾 孝之、松藤 敏彦
- ポスター1 D 4-8 最終処分場においてアスベスト含有廃棄物を確認するための掘削方法について
 (独)国立環境研究所 ○山田 正人、遠藤 和人
 埼玉県環境科学国際センター 川寄 幹生、米倉 哲志、磯部 友護、小野 雄策
 千葉県環境研究センター 大石 修、佐藤 賢司、依田 彦太郎
 千葉県南房総県民センター 石渡 康尊 (株)テクノアース 前田 正男
- D 4-9 ジオシンセティックス材を用いたオーバーキャッピング浸透制御実験
 ハザマ ○則松 勇、宇良 直子、笠 博義 太洋興業(株) 上田 康則、下田 宏治
- ポスター2 D 4-10 ミミズの忌避性を指標にした固体廃棄物の環境影響評価
 (独)国立環境研究所 ○阿部 誠、山田 正人、井上 雄三
- D 4-11 渦相関法を用いた処分場におけるメタンフラックスの測定法
 鹿島建設(株) ○間宮 尚、小澤 一喜、藤井 秀樹、浜村 憲、荒川 研佑
- ポスター1 D 4-12 東南アジアの処分場を対象としたガス回収・有効利用に関するCDM事業調査
 鹿島建設(株) ○小澤 一喜、間宮 尚、川端 淳一、曾根 祐太、藤井 秀樹、阪東 浩造
- ポスター2 D 4-13 ヨルダン国アルエケイデル埋立地の現状と環境汚染
 (独)国際協力機構 ○吉田 充夫 ヨルダン環境省 アルフェイエズ カリッド
- ポスター1 D 4-14 熱帯地域の埋立地における微生物生態系解析
 大阪大学 ○澤村 啓美、池 道彦 (独)国立環境研究所 山田 正人 龍谷大学 石垣 智基

D 5 埋立地安定化(1) 【11月21日(水) 第5会場 09:45 - 11:30】

- D 5-1 早期安定型埋立処分システムの開発に関する研究
 福岡大学 ○宮田 剛史、樋口 壯太郎 福岡県リサイクル総合研究センター 花嶋 正孝
 (有)ジェーハック 為、田 一雄
- D 5-2 強制的好気性工法による生活環境修復早期安定化システムの研究開発(その2)
 (有)グローバル環境システム研究所 ○元永 優一 福岡大学 樋口 壯太郎
 (財)福岡県リサイクル総合研究センター 花嶋 正孝
 福岡大学 武下 俊宏 前田建設工業(株) 中家 祥介 (株)テノックス 太田 和善
 (株)テノックス九州 小屋町 法之
- D 5-3 最終処分場の早期廃止・安定化促進に関する研究
 (株)クボタ ○吉崎 耕大、堀井 安雄 西日本環境リサーチ(株) 内田 正信、中島 健一
 福岡大学 樋口 壯太郎、武下 俊宏 福岡県リサイクル総合研究センター 花嶋 正孝
- ポスター1 D 5-4 酸素富化水・キレート剤等複合システムによる埋立地廃止促進技術の実用化研究(その2)
 松尾設計グループ ○海老原 正明、谷澤 房郎、神尾 克久、清水 剛、寺嶋 利幸、金田 芳久、
 清永 定光、又吉 康治、落合 勝幸 福岡大学 武下 俊宏、樋口 壯太郎
 福岡大学 押方 利郎 福岡県リサイクル総合研究センター 花嶋 正孝
- D 5-5 ラボスケールの埋立処分場バイオリクターによる廃棄物の安定化実験
 大阪大学 ○惣田 訓、Nguyen Nhu Sang、清 和成、池 道彦
- D 5-6 覆土の透水性が埋立廃棄物の安定化に与える影響
 (独)国立環境研究所 ○朝倉 宏、山田 正人、遠藤 和人、井上 雄三
 埼玉県環境科学国際センター 小野 雄策
- D 5-7 有機汚泥埋立における早期安定化技術の研究
 福岡大学 ○石田 泰之、樋口 壯太郎
 (財)福岡県環境保全公社リサイクル総合研究センター 花嶋 正孝
- D 5-8 最終処分場における法面遮水シート保護マットの研究開発
 (株)田中 ○村上 豊、富田 叔男 NP0 法人環境技術支援ネットワーク 加藤 隆也
- ポスター2 D 5-9 雨水制御キャッピング材(覆土タイプ)の開発
 清水建設(株) ○大野 文良 三ツ星ベルト(株) 下村 徹 帝人ファイバー(株) 朝比奈 達

D 6 埋立地安定化(2) 【11月21日(月) 第5会場 13:00 - 14:30】

- ポスター1 D 6-1 都市ごみ焼却主灰の固化の径時観察と炭酸化
 太平洋セメント(株) 今井 敏夫、○高野 博之
 (独)国立環境研究所 朝倉 宏、遠藤 和人、井上 雄三
- D 6-2 埋立地における都市ごみ焼却残渣の風化現象に関する研究
 九州大学 ○張 瑞娜、島岡 隆行

- D 6-3 混合埋立による都市ごみ焼却主灰の固化抑制
太平洋セメント(株) ○今井 敏夫 (独)国立環境研究所 朝倉 宏、遠藤 和人、井上 雄三
- D 6-4 焼却残渣の土壤還元化への有機資材の適用方法に関する研究(その2)
福岡大学 ○立藤 綾子、松藤 康司 杉田建材(株) 谷村 年基
- ポスター2 D 6-5 熱処理残渣からのアルカリ溶出に関する研究
宮崎大学 ○土手 裕、関戸 知雄
- D 6-6 透水性反応層による処分場浸出水中の有害有機化合物の除去
岡山大学 ○向井 一洋 (独)国立環境研究所 小瀬 知洋 科学技術振興機構 姉川 彩
岡山大学 毛利 紫乃、小野 芳朗
- D 6-7 浸透性反応層による最終処分場の重金属捕捉機構
岡山大学 ○吉岡 岳志、鈴木 和将、毛利 紫乃、小野 芳朗
- ポスター1 D 6-8 焼却灰の埋立管理における前処理の効果(2)
(株)フジタ ○久保田 洋、矢島 聡、岡本 太郎、酒向 信一、山田 裕己
- D 6-9 電解法による有機物分解と都市ごみ焼却灰の早期安定化効果
九州大学 ○大嶺 聖、落合 英俊、安福 規之、岩永 信太郎、小林 陽介

D 7 埋立ガス / 安定化指標 / 跡地利用 【 11月19日(月) 第6会場 13:15 - 14:30 】

- D 7-1 廃棄物関連施設からの温室効果ガス排出量算定手法の改善
龍谷大学 ○古田 祐介、占部 武生、石垣 智基
NPO 法人豊中市民環境会議アジェンダ 2 1 中村 義世 (独)国立環境研究所 山田 正人
岡山大学 小野 芳朗
- ポスター2 D 7-2 東南アジア処分場における廃棄物からのガス発生ポテンシャル評価
鹿島建設(株) ○荒川 研佑、間宮 尚、小澤 一喜、浜村 憲、阪東 浩造、三浦 一彦、藤井 秀樹、
曾根 佑太
- D 7-3 東南アジア諸国の埋立地覆土層におけるメタン排出量削減に関する研究
龍谷大学 ○石垣 智基、佐野 準治、白井 啓一 (独)国立環境研究所 山田 正人
- D 7-4 埋立終了後の廃棄物最終処分場に設置された受動型ガス抜き管内の温度・埋立ガス成分調査
室蘭工業大学 ○吉田 英樹
- ポスター1 D 7-5 水に浸漬した石膏ボードからの硫化水素発生
福岡大学 ○武下 俊宏、樋口 壯太郎
- D 7-6 田辺西バイパス三四六地区における環境に配慮した施工方法検討例について
国土交通省 山田 育寛 (財)先端建設技術センター 小野 等 中央開発 ○小野 諭、末宗 克浩
- D 7-7 RP 工法(埋立廃棄物静的圧縮減容化工法)による埋立廃棄物安定化促進実験(第3報)
ハザマ ○宇良 直子、則松 勇 海洋工業(株) 池田 通陽 環境テクノス(株) 岩本 浩
福岡大学 樋口 壯太郎
- ポスター2 D 7-8 建設廃棄物篩下残渣の生分解性に関する研究
埼玉県環境科学国際センター ○川寄 幹生、渡辺 洋一、小野 雄策
- ポスター1 D 7-9 埋立後長期間を経過した廃棄物の生物分解性を把握する手法に関する基礎的研究
北海道大学 ○東條 安匡、Pueboobpaphan Suthatip、松尾 孝之、松藤 敏彦
- ポスター2 D 7-10 キノンバイオマーカーを用いた一般廃棄物最終処分場の安定化指標の構築
山梨大学 ○藤田 昌史、今井 健太郎、辻 幸志、坂本 康

D 8 不法投棄 / 土壌・地下水汚染 【 11月19日(月) 第6会場 15:00 - 16:45 】

- D 8-1 廃棄物処分場周辺地域の水質・土壌汚染について
四日市大学 ○栗屋 かよ子、高橋 正昭、井岡 幹博、武本 行正
- D 8-2 不法投棄・集積された廃タイヤの原状回復費用とその支援制度に関する検討
東京工業大学 ○阿部 直也
- D 8-3 大規模不法投棄事案の支障除去対策に関する比較分析
北海道大学 ○金 相烈、古市 徹、谷川 昇、石井 一英、西 則雄
- D 8-4 原位置バイオレメディエーション法によるテトラクロロエチレン汚染現場の修復可能性の検討
北海道大学(現 DOWA ホールディングス(株)) ○長山 真子
北海道大学 古市 徹、石井 一英、谷川 昇
- ポスター1 D 8-5 不法投棄廃棄物を対象とした嫌気性バイオレメディエーションの適用可能性
八戸工業大学 ○鈴木 拓也 北海道大学 古市 徹 八戸工業大学 福士 憲一
北海道大学 石井 一英、谷川 昇
- D 8-6 マグネシウム系固化材によるトンネル掘削ズリの固化・不溶化処理に関する検討
(株)鴻池組 ○日高 厚、保賀 康史
- ポスター2 D 8-7 不法投棄廃棄物の修復工事におけるリスク低減化を目的とした強制空気注入技術
(株)大林組 ○黒木 泰貴、和男 和男 北海道大学 古市 徹、谷川 昇、石井 一英
- ポスター1 D 8-8 不法投棄廃棄物の撤去工法
(株)クレハ環境 福田 弘之、渡辺 邦男、○箱崎 忍

- ポスター2 D 8-9 河川の硝酸性窒素汚染源同定のための大腸菌群遺伝子分析手法の検討
北海道大学 ○石井 一英、古市 徹、谷川 昇、上村 友美
- D 8-10 過酸化水素を用いた湿式酸化処理による有機物の分解機構の検討
福岡大学 ○大川 清和、武下 俊宏、中野 勝之
- D 8-11 エコクレイ（EC）ウォール工法による遮水壁造成工事
矢作建設工業(株) ○早川 国男、竹岡 由積、楫 富久也 ライト工業(株) 池田 幸一郎

E 1 有害廃棄物処理（1） 【 11月20日（火） 第6会場 09:15 - 10:30 】

- E 1-1 廃ガラスを使った放射性廃棄物の減容・固化
東京都立産業技術研究センター ○小山 秀美 東京都下水道局 小林 政行
- E 1-2 廃棄物洗浄による焼却飛灰資源化技術開発
福岡大学 ○為田 一雄、趙 銀娥、樋口 壯太郎、大和 竹史
(財)福岡県環境保全公社リサイクル総合研究センター 花嶋 正孝
安養大学 李 南勲 現代建設(株)技術研究所 張 廷熹
- E 1-3 紫・赤外線照射による一般廃棄物焼却灰の安定化技術に関する研究
九州大学 ○溝田 景子 福岡大学 佐藤 研一、藤川 拓朗
- E 1-4 硫酸ピッチの撤去と亜硫酸ガス対策（埼玉県的事案）
埼玉県環境科学国際センター ○小野 雄策、渡辺 洋一、川岸 幹生、磯部 友護
埼玉県 福島 勤、菅井 敬二、野中 克彦、金子 亮、細井 知之、大嶋 公久
- E 1-5 不法投棄現場修復のためのテトラクロロエチレン嫌気性微生物分解とその影響因子に関する研究
北海道大学 ○大塚 美夏、古市 徹、石井 一英、谷川 昇
- ポスター1 E 1-6 有機触媒を用いた液状廃液の高効率な乾燥処理方法の研究
(株)日本バイオマス研究所 ○湯川 恭啓 筑波大学 北村 豊、佐竹 隆顕
- ポスター2 E 1-7 路面堆積物中の多環芳香族炭化水素含有量の分布
茨城県霞ヶ浦環境科学センター ○山田 功、鳥羽 美雪、菅谷 和寿、友部 正志

E 2 有害廃棄物処理（2） 【 11月20日（火） 第6会場 11:00 - 12:15 】

- ポスター1 E 2-1 ハロン 2402 の破壊処理（第2報）
(株)クレハ環境 堀口 司、大岡 幸裕、小林 茂樹、○久保 和也
- ポスター2 E 2-2 PCNB 農薬の産業廃棄物焼却施設における無害化処理について
(株)クレハ環境 堀口 司、大岡 幸裕、○小林 茂樹、本郷 和広
- ポスター1 E 2-3 アルコール、アルカリ、パラジウム触媒を用いる DDT、DDE、DDD の脱塩素処理
(独)産業技術総合研究所 ○浮須 祐二
- E 2-5 ダイオキシン類分析廃液の処理技術の開発
愛媛大学 ○野島 博明、高橋 知史、本田 克久
- E 2-6 無機塩類を含有する有害有機廃液の効率的な超臨界水酸化処理プロセスの検討
東京大学 ○田中 康収、布浦 鉄兵、中島 典之、山本 和夫
- E 2-7 白色腐朽菌による難分解性着色排水の分解と酵素由来ラジカルについて
大阪産業大学 ○高浪 龍平、陳 霞明、尾崎 博明、林 新太郎
- E 2-8 溶質分離機能を有する電極を用いた医薬品含有排水の電気分解処理法
大阪産業大学 ○谷口 省吾、尾崎 博明、山田 修、田中 嵩人、西 正貢
- E 2-11 機器分析のための PCB 汚染油迅速前処理法の開発
愛媛大学 ○高橋 知史、野島 博明、澤田石 一之、本田 克久

E 3 アスベスト/感染性廃棄物の処理 【 11月21日（水） 第6会場 09:45 - 11:00 】

- ポスター2 E 3-1 非飛散性アスベスト含有建材の廃棄物としての排出挙動に関する研究
(財)建材試験センター ○佐川 修、佐藤 哲夫
- E 3-2 過熱蒸気を用いたアスベスト無害化技術の開発
西松建設(株) ○大原 直、稲葉 力 大旺建設(株) 金澤 正澄、前 尚樹、高浪 哲郎
- E 3-3 セメント製造設備を模擬した実験炉による非飛散性アスベスト含有廃棄物の焼成処理に関する研究
太平洋セメント(株) ○平林 克己、鎌田 浩司、武井 明彦
- E 3-4 アスベストの無害化処理技術の開発（排ガス処理技術の適正化）
(株)IHI ○若松 秀樹、成澤 道則 (財)エンジニアリング振興協会 井上 里志
(株)カムテックス 水上 正善、片岡 義雄、渡辺 一行
- E 3-5 アスベスト熱処理物の透過型電子顕微鏡(TEM)による評価
(独)国立環境研究所 ○山本 貴士、貴田 晶子、野馬 幸生、寺園 淳 京都大学 酒井 伸一
- E 3-6 医療機関従事者に対する医療廃棄物処理に関するアンケート調査
国立保健医療科学院 伊藤 千春、小野 哲夫、佐藤 亜津子、清水 寛子、野崎 直彦、三澤 愛子、
○島崎 大、秋葉 道宏、鳩野 洋子、森川 美絵

E 4 有害性試験 【 11月21日(水) 第6会場 13:00 - 14:30 】

- E 4-1 プラスチック製品に含まれる親水性化合物の溶出特性について—pH依存性試験とイオン強度の影響—
神奈川環境科学センター ○坂本 広美 (独) 国立環境研究所 肴倉 宏史、大迫 政浩
- ポスター1 E 4-2 廃棄物リサイクル製品の評価手法の検討について
三重県科学技術振興センター ○吉村 英基、加藤 進、広瀬 和久
- ポスター2 E 4-3 廃棄物の有効利用を考慮した溶出試験法の検討
福岡大学 ○藤川 拓朗、佐藤 研一
- E 4-4 再資源化物としてのガス化炉灰固化体からの無機元素溶出挙動
岡山大学 ○鈴木 和将、藤井 隆史、綾野 克紀、毛利 紫乃、小野 芳朗
- E 4-5 再生製品からの重金属溶出に環境因子が与える影響の把握
東洋エンジニアリング(株) ○水林 晋哉 北海道大学 東條 安匡、松藤 敏彦
(独)国立環境研究所 肴倉 宏史、大迫 政浩
- E 4-6 環境最大溶出可能量試験の規格化における未規定因子による影響の解明
(独)国立環境研究所 ○肴倉 宏史、小林 常伸、大迫 政浩
- E 4-7 廃棄物洗浄システムによる洗浄灰からの浸出水の急性毒性評価
福岡大学 ○趙 銀娥、為田 一雄、樋口 壯太郎、花嶋 正孝
- E 4-8 一般廃棄物焼却灰のバイオアッセイによる毒性試験データ表示法の検討
東京工業高等専門学校 ○貞国 亮司、庄司 良 九州工業大学 浦田 真嗣
理化学研究所 榊原 均、井藤賀 操、小松 由佳梨 東京大学 酒井 康行
岡山大学 毛利 紫乃、小野 芳朗

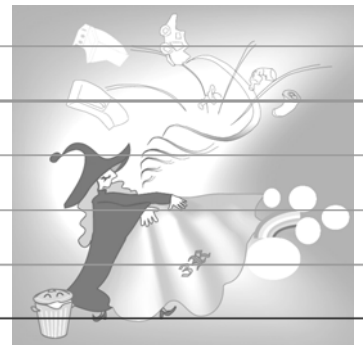
F International Poster Session

- Poster1 F 1-1 Development of new association for Solid Waste collection Service in JJRRV
○Akio Ishii, Noboru Osakabe, Hiroshi Abe, Yachiyo Engineering Co.,Ltd.
Jabbar Abdel, JCspd
- Poster1 F 1-2 Assessment of CDM scenarios on waste management in developing country: case study of Hanoi, Vietnam
○Suk-Hui Lee, Ki-In Choi, Masahiro Osako, Masato Yamada,
National Institute for Environmental Studies
Tomonori Ishigaki, Ryukoku University, Jong-In Dong, University of Seoul
- Poster1 F 1-3 3R Project in Hanoi City: A Challenge to Build a Sound Material-Cycle Society
○Hisashi Yamauchi, Shinichi Murata, Yachiyo Engineering Co.,Ltd.
VanChung Chu, Hanoi URENCO
- Poster1 F 1-4 Municipal Solid Waste Management Status Quo and Trend in Shanghai, China
○Xianbing Liu, Masaru Tanaka, Yasuhiro Matsui, Okayama University
- Poster1 F 1-5 Household Waste Emission Model Based on Consumption Expenditure: A Case Study in Urban Area of Shanghai
○Jinmei Yang, Kyoto University Takeshi Fujiwara, Okayama University
Yuzuru Matsuoka, Kyoto University
- Poster1 F 1-6 Statistical Model for Estimation of Household Waste Emission by Composition in Taiwan Based on Consumption Expenditure
○Yu-Chi Weng, Kyoto University Takeshi Fujiwara, Okayama University
Yuzuru Matsuoka, Kyoto University
- Poster1 F 2-1 Simulation of Continuous Recycling Process of Nickel from Spent Electroless Nickel Plating Baths Using Solvent Extraction Technique
○Ying Huang, Mikiya Tanaka, Yumiko sato,
National Institute of Advanced Industrial Science and Technology
- Poster1 F 2-2 Bromination Reactions of Heavy Metal Oxides by SbBr₃ and TBBPA
Mariusz Grabda, Sylwia Oleszek-Kudlak, ○Etsuro Shibata, Takashi Nakamura, Tohoku University
- Poster1 F 2-3 Recycling of polypropylene/PET mixed plastics from waste automobile interior parts
○Wan-Tae Kim, Kyung-Hoon Lee, Jeong-Ho Kim, University of Suwon
Won-Ku Lee, NVH Korea Inc.
- Poster1 F 2-4 Recycling process of spent Lithium ion batteries
○Shun-Myung Shin, Jeong-Soo Sohn, Dong-Hyo Yang, Jin-Gu Kang,
Korea Institute of Geoscience and Mineral Resources
- Poster1 F 2-5 Experimental Study on Development of Decorative Concrete Using Industrial Waste Red Mud
○Chong-Hyun Hong, Tamna University
Dong-Young Jeong, Kyoung-Rag Choi, Kundong University

- Poster1 F 2-6 Used & End-of-life Mobile Phones Management in Korea: Current Practices and Main Obstacles for Improvement
 ○Yong-Chul Jang, Hee-Seok Kang, Hyun-Myung Yoon, Chungnam National University
 Min-Cheol Kim, Cheju National University
 Won-Yong Lee, Hyo-Teak Song, Korea Association of Electronics & Environment
- Poster1 F 2-7 The digestion efficiency of hybrid reactor according to mixture ratio of livestock wastewater and food wastes of influent
 ○Jong-Hyun Choi, Tae-Kyu Eom, Jung-Min Baek, Kyungsook university
 Seung-Jin Na, Eco Solution
- Poster1 F 2-8 Anaerobic Pretreatment of Swine Wastewater Using Hycem Filter for Subsequent BNR Process
 ○Ho Kang, Young-Chan Cha, Chungnam National University
 Kwang-Berm Hur, Sang-Kyu Rhim, Korea Electric Power Corporation
- Poster1 F 2-9 Feasibility test for the utilization of BOF (Biomass and Oil sludge Fuel) into cement kiln
 ○Hong-Won Ha, Sung-Keun Bae, Changwon National University
 Sung-Woo Kim, Samhyup Resource Development Co., Ltd.
- Poster1 F 2-10 A Study on the Unit of Construction Wastes when Demolishing Buildings
 ○Byeung-Hun Son, Won-Hwa Hong, Kyungpook National University
 Jong-Suk Jung, Housing & Urban Research Institute
- Poster1 F 2-11 QUALITY IDENTIFICATION OF TRAP GREASE AS FEEDSTOCK FOR BIODIESEL FUEL
 ○Ki-In Choi, Hidetoshi Kuramochi, Masahiro Osako, National Institute for Environmental Studies
 Kazuo Nakamura, Kyoto city office Shinichi Sakai, Kyoto University
- Poster1 F 3-1 Carbonization of agricultural wastes under elevated pressures
 ○Pornpen Jittiwuttinon, Nunoura Teppei, Fumiyuki Nakajima, Kazuo Yamamoto,
 The University of Tokyo
- Poster1 F 3-2 Emission status of exhaust gases from municipal solid waste incinerators in Japan
 ○Kenichiro Inoue, Kenji Yasuda, Katsuya Kawamoto,
 National Institute for Environmental Studies
- Poster1 F 3-3 Water washing with CO₂ bubbling as pretreatment of melting furnace fly ash for recovery of rare metals
 ○Chang-Hwan Jung, Masahiro Osako, National Institute for Environmental Studies
- Poster1 F 3-4 Study on the characteristic of sewage sludge dewatering using the fry-drying technology
 ○Tae-In Ohm, Jong-Seong Chae, Dong-Yae Min, Jung-Eun Kim, Hanbat National University
 Seung-Hyun Moon, KIER
- Poster1 F 3-5 Study on drying and carbonization characteristic of dyeing wastewater sludge
 ○Seung-Han Ryu, Sung-Jin Kim, Sang-Hun Lee, Jang-Seung Choi, Seong-Jin Cho,
 Dong-Hoon Shin, Jun-Hyung Park, Korea Dyeing Technology Center
- Poster1 F 3-6 PCDDs/DFs and Co-PCBs concentrations in some kinds of industrial wastes in Korea
 ○Jae-Yun Kim, Sang-Yee Ham, Dong-Hoon Lee, University of Soeul
 Myung-Hee Kwon, National Institute of Environmental Research
- Poster1 F 3-7 Surface Characteristics of Adsorbent Prepared with Acid-Base Pretreatments of MSWI Fly Ash
 ○Eun-Zoo Park, Woo-Keun Lee, Kangwon National University
- Poster1 F 3-8 Photodegradation of BTEX and odorous compounds by Fluidized Bed Gaseous Reactor with TiO₂/SiO₂ Photocatalysts
 ○Jae-Hyoung Park, Hyun-Seung Kim, Yong-Soo Seo, Il-Kyu Kim, Pukyong National University
- Poster1 F 3-9 Compressive strength of porous concrete used the fine aggregate of bottom ash
 Jin-Man Kim, ○Joung-Soo Sun, Eun-Gu Kwak, Ha-Seog Kim, Cheol Kang,
 Kongju National University
- Poster1 F 3-10 Properties of Light-Weight foamed concrete using the waste concrete sludge
 Jin-Man Kim, ○Eun-Gu Kwak, Joung-Soo Sun Kongju National University
 Ki-Suk Han, Hycem Tech Co.,Ltd.
- Poster1 F 3-11 A Study on the pyrolysis characteristics of sewage sludge
 ○Sung-Jin Cho, Yong-Chil Seo, Young-Sik Yoon, Hae-Young Jung, Jeong-Hun Kim,
 Sang-Hyeob Lee, Tae-Young Jeong, Yonsei University
 Chan-Sub Choi, Korean Environmental Technology Cooperation
- Poster1 F 3-12 A Study on the Emission Characteristics of Hazardous Air Pollutants from Cement Kiln
 ○Seung-Uk Son, Yong-Chil Seo, Jeong-Hun Kim, Ha-Na Jang, Ju-Hyoung Lee,
 Sang-Hyeob Lee, Yonsei University
 Geum-Ju Song, Pohang University of Science and Technology
 Kyu-Shik Park, Ministry of Environment

- Poster1 F 3-13 Formation characteristics of sulfur compounds and PCDDs/PCDFs from dried sewage sludge pyrolysis/combustion utilizing fluidized bed reactor
○Jong-In Dong, Woo-Chan Lee, Won-Gu Hwang, University of Seoul
Oh-Sub Yoon, Hanabat National University
Jong-Wan Lim, Sang-Jin Jeon, Usentech
- Poster1 F 4-1 Social Participation in Landfill Management in Metro Manila, Philippines: A Look at Waste Management Options and Livelihood Prospects in Payatas
○Kevin Roy Ballado Serrona, Kosuke Toshiki, Jeong-soo Yu, Tohoku University
- Poster1 F 4-2 Performance of solid waste digestion and bacterial monitoring in landfill bioreactor with intermittent aeration mode
○Nguyen Nhu Sang, Satoshi Soda, Kazunari Sei, Michihiko Ike, Osaka University
- Poster1 F 4-3 Removal of Dye in Water by the Combination of O₃ and Activated Carbon
○Xiaosheng Peng, Akio Furuta, Jugo Koketsu, Yoshihiko Ninomiya, Chubu University
Atsushi Okuda, Fuji Seiku Kogyosho Co.,Ltd.
- Poster1 F 4-4 Treatment of Arsenic Contaminated Soil Using Dissimilatory Iron Reduction Bacteria
○Sang-Woo Lee, Byung-Seo Lim, Sun-Nyeoo Ham, Kwang-Yul Kim, Chungbuk National University
Ik-Jun Yeon, Chungju National University
Kyoung-Woong Kim, Gwangju Institute of Science and Technology
- Poster1 F 4-5 Long term-monitored heavy metals of leachate in landfill using wasted steel scrap and tire rubbers
○Sun Young Youm, So Young Moon, Gwan-Ju Jung, Jai-Young Lee, University of Seoul
Mi-Ran Lee, Daisung Green Tech Co.,Ltd. Byung-Taek Oh, Hallym University
- Poster1 F 4-6 Assessment of Contamination for Heavy Metals Fraction and Mobility According to Depth in Abandoned Mine Tailing
○Hee-Joung Kim, Son-Ku Kim, Sang-Ho Jun, Joon-Seok Park, Kangwon Natational University
Seung-Jin Choi, Yonsei University
- Poster1 F 4-7 Application of Electrical Resistivity Measurement for Monitoring Landfills in Operation
○Yong-Sung Kim, Jun-Boum Park, Seoul National University
Myoung-Hak Oh, Korea Ocean Research & Development Institute
Kazuto Endo, National Institute for Environmental Studies
- Poster1 F 4-8 Effects of leachate recirculation on decomposition of municipal solid wastes in large scale lysimeters
○Kyung-Dae Lee, Jeong-An Kwon, Min-Yoo Yang, Dong-Hoon Lee, University of Seoul
Yong-Jin Kim, Mokpo National Maritime University
Jong-won Kim, Jong Choul Won, Don-sik You, Kyeong-Ho Lee, SUDOKWON Landfill SiteManagement Corp.
- Poster1 F 4-9 Evaluation of methane oxidation rate of landfill cover soil using an open-top column
○Jong-Hyoun Youn, Eun-Jeong Jeon, Mun-Sol Ju, Dong-Hoon Lee, University of Seoul
- Poster1 F 4-10 Characteristics of dissolved organic matter and trace organic pollutants depending on leachate treatment processes in final disposal site containing incineration residues
○Woo-Chan Koh, Min-Woo Yang, Sang-Yee Ham, Dong-Hoon Lee, University of Seoul
○Yong-Jin Kim, Hun-Young Lee, Mokpo National Maritime University
- Poster1 F 4-11 Decomposition behavior of zinc and copper cyanide complexes by wet oxidation at lower temperatures
○Dalibor Kuchar, Shinji Agari, Naoto Mihara, Mitsuhiro Kubota, Hitoki Matsuda, Nagoya University
Tadashi Fukuta, Sanshin Mfg. Co.,Ltd.
- Poster1 F 5-1 Fraction and Mobilization of Heavy Metal in the Gwi-Myoung Zinc Mine Wastes
○Jung-Gun Kim, Ji-Hoon Jeong, Kyoung-Joo Park, Jai-Young Lee, University of Seoul
Hee-Joung Kim, Kangwon National University
- Poster1 F 5-2 Development of high temperature treatment system for non-degradable liquid waste disposal
○Ji-Sun Ju, Yong-Seung Yun, Institute for Advanced Engineering
Gang-Woo Lee, Yoosung Co.,Ltd.

MEMO



参加案内は廃棄物学会ホームページでもご覧いただけます。
<http://www.jswme.gr.jp/>

発表ガイドライン

口頭発表

第 18 回研究発表会における一般口頭発表は、**液晶プロジェクターでの発表とします。**

1. 基本事項

- 発表者であっても参加申込、参加費は必要です。
- 講演時間に遅刻した場合は、発表できないことがあります。
- **発表の講演時間は、発表 10 分、質疑応答 5 分の計 15 分です。** 時間を超過した場合には、発表の途中であっても座長に打ち切られることがあります。
- 聴衆者に良く理解されるような発表を行ってください。特に、継続性のある研究を発表される場合には、これまでの発表との違い、今回の発表の特徴を明確にして発表を行ってください。

2. 液晶プロジェクターでの講演について

(1) ファイルの作成について

- **ファイル名は、「セッション番号 演者の氏名.ppt」としてください。**
(例: 「A1-1 廃棄物太郎.ppt」)
- 講演ファイルは Microsoft PowerPoint® で作成し、ファイルの容量は最大でも 10MB 程度に収まるようにお願い致します。
- 液晶プロジェクターに接続されるノートパソコンのオペレーティングシステムは Microsoft Windows® XP で、使用ソフトは PowerPoint® 2003 です。この仕様に基づいた動作確認を行った上でファイルを会場に持参してください。

(2) ファイルの受付について

- 「講演ファイル受付」は、1 階総合受付の隣にあります。詳細は、会場案内図 p36 を参照ください。
- 初日 (11 月 19 日) は講演ファイル受付が混雑するおそれがありますので、初日午後の発表者は早めの受付をお願いします。
- ファイル名は指定どおりに付けてください。 「セッション番号 演者の氏名.ppt」

- 講演ファイルは、USB メモリー、CD、または、DVD で研究発表会会場に持参してください。
- 開催期間中は随時、講演ファイルをお頂かりしますが、遅くとも各発表セッション (例えば A 1、C 1 など) 開始 15 分前までに「講演ファイル受付」に USB 等を持参してください。担当者がファイル名等を確認し、インストールを行います。

(3) その他

- 各講演会場に講演ファイルをインストールしたノートパソコンと液晶プロジェクターを用意します。講演者自らがノートパソコンを操作し、講演を行ってください。
- 講演ファイルは大会終了後に実行委員会が責任を持って消去致します。

ポスター発表

ポスター発表は、2日に分けて行われます（ポスター1は1日目、ポスター2は2日目）。

また、優れたポスターに対して、優秀ポスター賞を設けています。審査は論文講演者、理事、常設委員会委員、実行委員会委員からの投票で行います。2日目の意見交換会において、発表および表彰を行いますので、力作を持ってご参加ください。

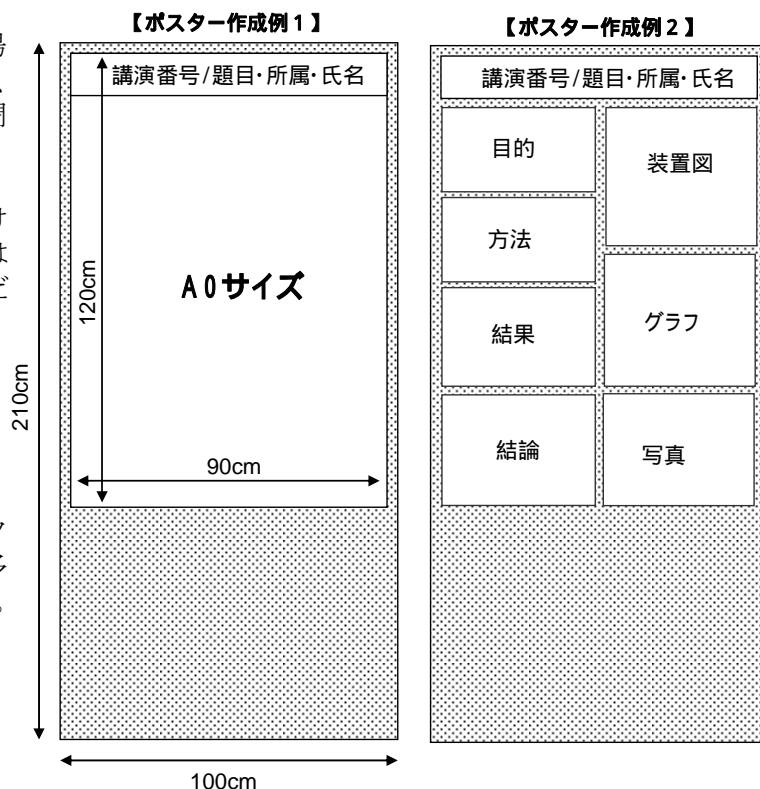
1. 発表者であっても参加申込、参加費は必要です。
2. 継続性のある研究を発表される場合には、これまでの発表との違い、今回の発表の特徴を明確にして発表を行ってください。
3. 論文1件あたりのポスター貼り付けスペースは、タテ120cm×ヨコ90cm（A0サイズ）とします（タテ210cm×ヨコ100cmのボードを使用）。ただし、パネルの最上部タテ10cm部分には必ず、講演番号、題目、所属、氏名を印刷するか、または記入した用紙を貼ってください。ポスターを貼り付けるパネルの色は、薄い灰色です。（色の表現が適切でないかもしれませんので、あくまで参考としてください。）
4. ポスターの理解度を深めるために、実験サンプルやアルバムを持ち込むことは、かさばらなければ可とします。ただし、ビデオ、パソコン等電源を必要とするものは不可とします。また、商品宣伝の意図を強く出した内容のものも不可とします。
5. ポスターの貼付、発表及び撤収時間はそれぞれ以下のとおりです。
貼付：11月19日(月) 12:00 ~ 15:00
発表：ポスター1 11月19日(月) 17:00 ~ 18:30 （公開掲示時間 15:00 ~ 18:30）
ポスター2 11月20日(火) 17:00 ~ 18:30 （公開掲示時間 15:00 ~ 18:30）
撤収：11月20日(火) 18:30 ~ 20:30

6. 発表者は、ポスター貼付前にポスター会場の受付に到着した旨を伝え、発表者リボン、貼り付け用ピンを受け取り、注意事項を聞いてください。
7. 図面やグラフなどをパネルに直接貼り付けても構いません。パネルへの貼り付けにはピン（会場付近にて配布）を使用してください。
8. 発表者は発表時間に、ポスターの前で説明を行ってください。
9. 撤収は必ず発表者の責任でお願いします。撤収時間を過ぎた場合には、会場スタッフがポスターを撤収・廃棄しますが、毎年多大な負担となっています。ご協力ください。

撤収期限

11月20日(火) 20:30

厳守してください



参加申込方法

次の点を特にご注意ください。

- ・今回より、研究発表会講演論文集は CD-ROM 版のみとなります（事前受付、当日受付を問わず、参加申込をされた方全員に CD-ROM 版論文集を配布します）。なお、会場での要旨集等の配布、CD-ROM 版論文集の閲覧・印刷サービス等はありません。
- ・従来の印刷製本版は作成いたしません。やむを得ず必要な方には、CD-ROM 版論文集から出力した簡易製本版を用意する予定です。必要な方は 9 月 28 日（金）までに学会事務局（TEL：03-3769-5099）へあらかじめご連絡ください。その場合、実費相当（8,000 円）をご負担いただきますので、参加費とあわせて指定口座にお振込みください。簡易製本版は、研究発表会当日に会場にて引き渡し致します。

(1) 申込方法

この冊子に同封の参加申込方法をお読みの上、申込書を電子メール、FAX または郵送にて送信し、参加費を下記の指定銀行口座にお振込ください。電子メールで申込みされる方は、学会 HP (<http://www.jswme.gr.jp/>) に掲載の参加申込書（XLS 形式）をご利用の上、sanka18th@jswme.gr.jp まで送信してください。

指定銀行口座 銀行名：みずほ銀行 芝支店（店番号：054）
口座名：廃棄物学会研究発表会（ハクブツガクケンブツガクノヨカイ）
口座番号：普通 2504706
振込締切日：平成 19 年 10 月 10 日（水） 【振込手数料はご負担願います】

- ・入金を確認後、11 月上旬に参加証及び CD-ROM 版論文集を送付します。
 - ※ 領収書は参加証に添付されています。別途必要な場合は大会当日に参加証をお持ちの上、総合受付までお越しください。
 - ※ 申込み後、参加されなかった場合でも、参加費の返金はいたしません。
 - ※ 事前申込を基本としますが、研究発表会当日の参加受付も行います。

【意見交換会参加の方】

- ・研究発表会参加費との合計金額を一括してお振り込みください。
- ・11 月上旬に参加証を送付する際に、参加証に意見交換会受付済みのシールを張って送付します。当日の申込は必要ありません。

(2) 参加費

	研究発表会参加費 (CD-ROM 版論文集代含む)	意見交換会参加費	
		事前受付	当日受付
正会員、公益会員、賛助会員所属	8,000 円	6,000 円	7,000 円
学生会員、登録団体市民会員	8,000 円	2,500 円	3,000 円
非会員	12,000 円	6,000 円	7,000 円

(3) 申込締切： **平成 19 年 9 月 28 日（金）**・・・ 振込みは平成 19 年 10 月 10 日（水）までをお願いします。

(4) 当日受付について

事前申込ができなかった方は、会場にて当日受付をご利用ください。研究発表会参加費は事前申込と同じですが、意見交換会参加費は上の表のとおりとなります。現金払いのみで、後払いは一切承っておりません。なお、参加費は釣銭のないようご用意願います。

受付時に CD-ROM 版論文集をお渡しします。※簡易製本版論文集の研究発表会当日の申込・購入はできませんので、必要な方は 9 月 28 日（金）までに学会事務局へあらかじめご連絡ください。実費相当（8,000 円）をご負担いただきます。

(5) 申込・問合せ先： 〒108-0014 東京都港区芝 5-1-9 豊前屋ビル 5 階 廃棄物学会事務局
TEL：03-3769-5099 FAX:03-3769-1492 E-Mail:sanka18th@jswme.gr.jp

会場へのアクセス

つくばエクスプレスでのアクセス

- つくば駅下車、徒歩10分。
(秋葉原駅からつくば駅まで快速で45分)

JR+バスでのアクセス

- JR常磐線 ひたち野うしく駅、荒川沖駅、または、土浦駅より、バスで「つくばセンター」下車、徒歩8分

高速バスでのアクセス

- 東京駅、羽田空港、成田空港等より高速バスにて「つくばセンター」下車、徒歩8分

つくば駅・つくばセンターからは、歩行者専用通路
(ペDESTリアンデッキ)をご利用ください

つくば国際会議場

〒305-0032 茨城県つくば市竹園 2-20-3
TEL:029-861-0001 FAX:029-861-1209
<http://www.epochal.or.jp/>



緊急時の問合せ先

地震や台風などの緊急時における学会の開催等の対応については、学会の臨時ホームページ:<http://jswe.gr.jp/info/>でお知らせします。(携帯電話のweb閲覧機能に対応していますが、一部の機種では表示できない可能性があります。)
その他の場合の連絡先 ~ 11月16日(金) 廃棄物学会事務局: 03-3769-5099(11月17日(土)~11月21日(水)不在)
11月19日(月)~21日(水) 大会本部 : 090-8054-4357



会場案内図（つくば国際会議場）

